



Cisco UCS C3260 ストレージ サーバのインストールおよびサービス ガイド

初版: 2016 年 8 月 5 日

更新: 2016 年 8 月 26 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述: この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述: この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。本機器は、無線周波数エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信障害を引き起こす場合があります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 機器と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに機器を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク ボロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco UCS C3260 ストレージ サーバのインストールおよびサービス ガイド
© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



CHAPTER 1**概要 1-1**

- 前面パネルの機能 1-1
- 背面パネルの機能 1-2
- 交換可能なコンポーネントの位置 1-3
 - 主要シャーシ内で交換可能なコンポーネント 1-3
 - C3X60 M4 サーバ ノード内のコンポーネント 1-5
 - I/O エクспанダ内のコンポーネント 1-5
 - システムの I/O コントローラ内のコンポーネント 1-5
- Cisco UCS C3260 アーキテクチャの概要 1-6
 - 管理アーキテクチャ 1-6
 - データ アーキテクチャ 1-7
- システム機能の概要 1-8

CHAPTER 2**システムのインストール 2-1**

- システムの開梱と点検 2-1
- システムの設置準備 2-2
 - 設置に関するガイドライン 2-2
 - ラックに関する要件 2-3
 - 工具の要件 2-3
 - スライド レールの調整範囲 2-3
 - ケーブル マネジメント アームの寸法 2-3
- ラックへのシステムの設置 2-4
 - スライド レールの取り付け 2-4
 - ケーブル マネジメント アーム（省略可能）の取り付け 2-7
 - ケーブル マネジメント アーム（省略可能）の取り付けを逆にする 2-9
- システムの初期セットアップ 2-9
 - デフォルトのネットワーキング設定 2-10
 - システム IP アドレス 2-10
 - DHCP の要件 2-10
 - システムの接続とセットアップ ユーティリティの起動 2-11
 - Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ 2-12
 - CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定 2-15

NIC モードおよび NIC 冗長化の設定	2-15
NIC モード	2-15
NIC 冗長化	2-16
システム BIOS および Cisco IMC ファームウェア	2-16
BIOS および Cisco IMC ファームウェアの更新	2-16
システム BIOS へのアクセス	2-17

CHAPTER 3

システムのメンテナンス 3-1

ステータス LED およびボタン	3-1
前面パネルの LED	3-1
背面パネルの LED およびボタン	3-4
内部診断 LED	3-7
主要シャーシの診断 LED	3-8
サーバノードの診断 LED	3-9
システム コンポーネントの取り付けまたは交換の準備	3-9
メンテナンス手順に必要な工具	3-9
C3260 システムのシャット ダウンおよび電源オフ	3-9
個々のサーバノードのシャットダウン	3-10
Cisco IMC GUI を使用したサーバノードのシャットダウン	3-10
サーバノードの電源ボタンを使用したサーバノードのシャットダウン	3-11
シャーシとコンポーネントのカバーの取り外し	3-11
主要シャーシの上部カバーを開く	3-11
サーバノード カバーの取り外し	3-13
I/O エクスパンダのカバーの取り外し (C3X60 M4 サーバノードのみ)	3-13
ノードからの I/O エクスパンダの取り外し (C3X60 M4 サーバノードのみ)	3-13
システム I/O コントローラ (SIOC) のカバーの取り外し	3-13
システム コンポーネントの取り付けまたは交換	3-14
ハードドライブまたはソリッド ステート ドライブの交換	3-15
4K セクターフォーマットドライブの考慮事項	3-15
内蔵ドライブのコンパートメントの HDD または SSD の交換	3-17
オプションのドライブ拡張モジュールのハード ドライブの交換	3-20
背面パネルベイの SAS/SATA ソリッド ステート ドライブの交換	3-22
ファン モジュールの交換	3-23
サーバノードの交換	3-25
ドライブ拡張モジュールの交換	3-25
システムの I/O コントローラ (SIOC) の交換	3-26
単一 SIOC システムの SIOC 交換	3-27
デュアル SIOC システムの SIOC の交換	3-27

SIOC SFP+ ポート速度の設定	3-28
デュアル SIOC でありながらサーバノードが1つしか搭載されていないシステムの SIOC アダプタ ファームウェアの更新	3-29
電源モジュールの交換	3-30
サーバノード内の DIMM の交換	3-31
サーバノード内の CPU およびヒートシンクの交換	3-31
サーバノード内のストレージコントローラ カードの交換	3-31
サーバノード内のソリッドステートドライブの交換 (C3X60 M4 のみ)	3-32
サーバノード内の RTC バッテリーの交換	3-32
サーバノード内の内部 USB ドライブの交換 (C3X60 M3 のみ)	3-32
サーバノード内でのトラステッドプラットフォーム モジュール (TPM) の取り付け	3-32
I/O エクスパンダの交換 (C3X60 M4 サーバノードのみ)	3-32
I/O エクスパンダ内の PCIe カードの交換 (C3X60 M4 サーバノードのみ)	3-32
C3260 SIOC 内の RTC バッテリーの交換	3-33
サーバノード ボードのサービス ヘッダー	3-34

APPENDIX A**システムの仕様 A-1**

システムの物理仕様	A-1
システムの環境仕様	A-1
電力仕様	A-2

APPENDIX B**電源コードの仕様 B-1**

サポートされる電源コードおよびプラグ	B-1
--------------------	-----

APPENDIX C**ストレージコントローラに関する考慮事項 C-1****APPENDIX D****Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法 D-1****APPENDIX E****C3X60 M4 サーバノードを搭載した Cisco UCS C3260 システムへのアップグレード E-1**

Cisco UCS C3160 システムと C3260 システムの違い	E-1
M3 サーバノードが1つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが1つ搭載された C3260 へのアップグレード	E-2
このアップグレードに必要な品目	E-2
アップグレードの考慮事項	E-3
アップグレード手順	E-3
手順の概要	E-3
M3 サーバノードが搭載された C3260 システムの M4 サーバノードが搭載された C3260 へのアップグレード	E-3

M3 サーバノードが2つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが2つ搭載された C3260 へのアップグレード	E-6
このアップグレードに必要な品目	E-6
アップグレードの考慮事項	E-7
アップグレード手順	E-7
手順の概要	E-7
M3 サーバノードが2つ搭載された C3260 システムの M4 サーバノードが2つ搭載された C3260 へのアップグレード	E-7
M3 サーバノード1つが搭載された C3160 から M4 サーバノード1つ搭載された C3260 への移行	E-10
この移行に必要な品目	E-10
アップグレードの考慮事項	E-10
移行手順	E-11
手順の概要	E-11
M3 サーバノード1つが搭載された C3160 から M4 サーバノード1つが搭載された C3260 への移行	E-11
M4 サーバノードが搭載された C3260 システムへの2番目のサーバノードまたは SIOC の取り付け	E-13
2番目の SIOC の設置	E-13
2番目の M4 サーバノードの取り付け	E-14
この手順に必要な品目	E-14
手順	E-14



概要

この章では、Cisco UCS C3260 高密度ストレージ システムの概要を示します。

このシステムでサポートされるサーバ ノードについては、ご使用のサーバ ノードのサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

C3X60 M3 サーバ ノードから C3X60 M4 サーバ ノードへの移行手順については、[C3X60 M4 サーバ ノードを搭載した Cisco UCS C3260 システムへのアップグレード \(E-1 ページ\)](#) を参照してください。

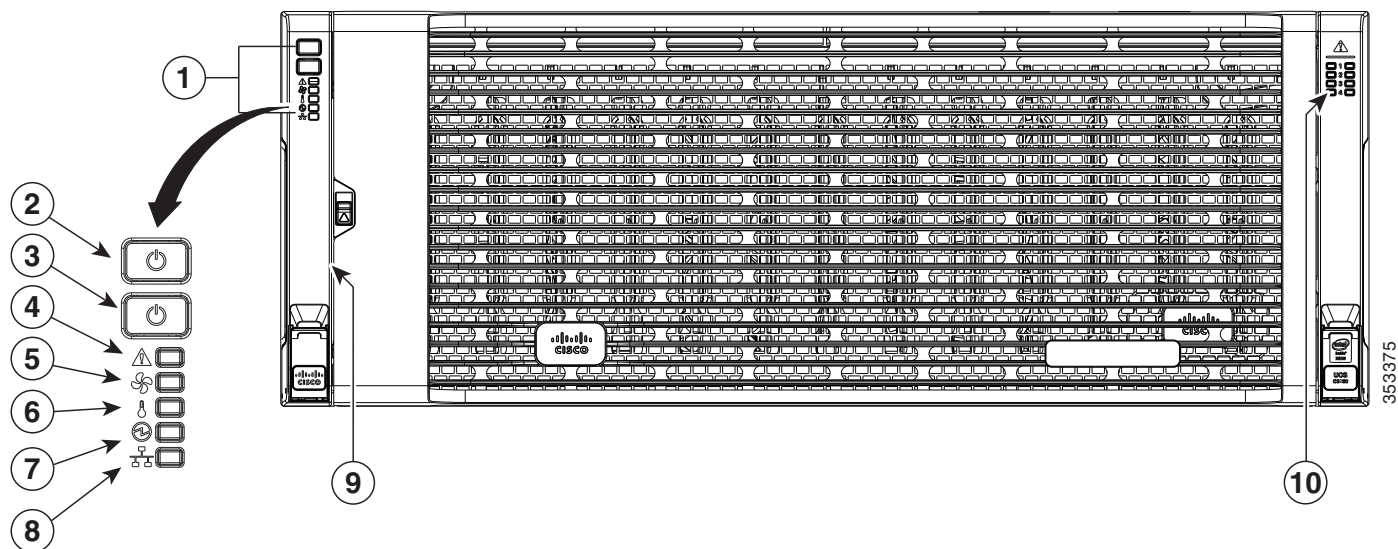


(注) 同じシステム内に M3 と M4 サーバ ノードを混在させないでください。

前面パネルの機能

図 1-1 に、システムの前面パネルの機構を示します。システムは、取り外し可能なリムーバブル前面ベゼルが取り付けられた状態で表示されます。LED の状態の定義については、[前面パネルの LED \(3-1 ページ\)](#) を参照してください。

図 1-1 前面パネルの機構

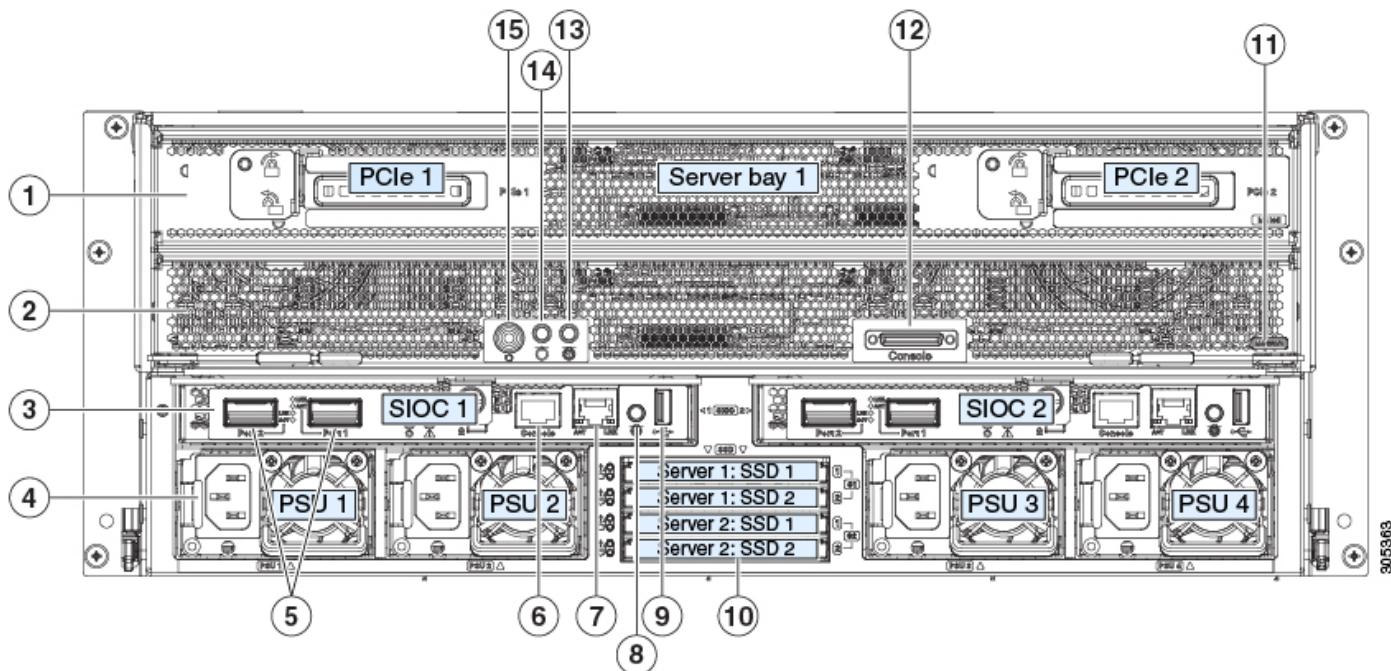


■ 背面パネルの機能

1	操作パネル	6	温度ステータス LED
2	システム電源ボタン/LED	7	電源装置ステータス LED
3	システムユニット識別ボタン/LED	8	ネットワークリンクアクティビティ LED
4	システムステータス LED	9	引き出し型の資産タグ(前面ベゼルの下に表示されない)
5	ファンステータス LED	10	内蔵ドライブのステータス LED

背面パネルの機能

図 1-2 背面パネルの機能、C3260 システム



1	サーバベイ 1 <ul style="list-style-type: none"> (オプション)I/O エクスパンダ(図を参照) (C3X60 M4 サーバ ノードのみに接続) (オプション)サーバ ノード 	8	現時点ではサポートされていません。
2	サーバベイ 2 <ul style="list-style-type: none"> (オプション)サーバ ノード(図の C3X60 M4) (オプション)ドライブ エクスパンダ モジュール 	9	現時点ではサポートされていません。
3	システム I/O コントローラ (SIOC) <ul style="list-style-type: none"> サーバベイ 1 にサーバ ノードがある場合は SIOC 1 が必要 サーバベイ 2 にサーバ ノードがある場合は SIOC 2 が必要 	10	ソリッドステートドライブベイ(最大で4つの2.5インチ SAS SSD) <ul style="list-style-type: none"> サーバ1のベイ1および2のSSDには、サーバベイ1のサーバノードが必要です サーバ2のベイ1および2のSSDには、サーバベイ2のサーバノードが必要です
4	電源装置(4、2+2として冗長)	11	C3X60 M4 サーバノードのラベル(M4 SVRN) 注:このラベルは、C3X60 M4 サーバノードを識別します。C3X60 M3 サーバノードにはラベルがありません。

5	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに2つ)	12	KVM コンソールコネクタ(サーバノードごとに1つ) USB 2個、VGA 1個、シリアルコネクタ1個を装備した KVM ケーブルで使用
6	Chassis Management Controller(CMC)のデバッグファームウェアユーティリティポート (SIOC ごとに1つ)	13	サーバノードのユニット識別ボタン/LED
7	10/100/1000 専用管理ポート、RJ-45 コネクタ (SIOC ごとに1つ)	14	サーバノードの電源ボタン
		15	サーバノードのリセットボタン(サーバノードのチップセットをリセット)

交換可能なコンポーネントの位置

ここでは、次の内容について説明します。

- [主要シャーシ内で交換可能なコンポーネント \(1-3 ページ\)](#)
- [C3X60 M4 サーバノード内のコンポーネント \(1-5 ページ\)](#)
- [I/O エクスパンダ内のコンポーネント \(1-5 ページ\)](#)
- [システムの I/O コントローラ内のコンポーネント \(1-5 ページ\)](#)

主要シャーシ内で交換可能なコンポーネント

ここでは、主要シャーシ内で交換可能なコンポーネントの位置を示します。背面パネルからアクセスできるコンポーネントもあれば、上部カバーを開けてアクセスできるコンポーネントもあります。

図 1-3 のシステム上面図は、上部カバーを開けた状態を示します。

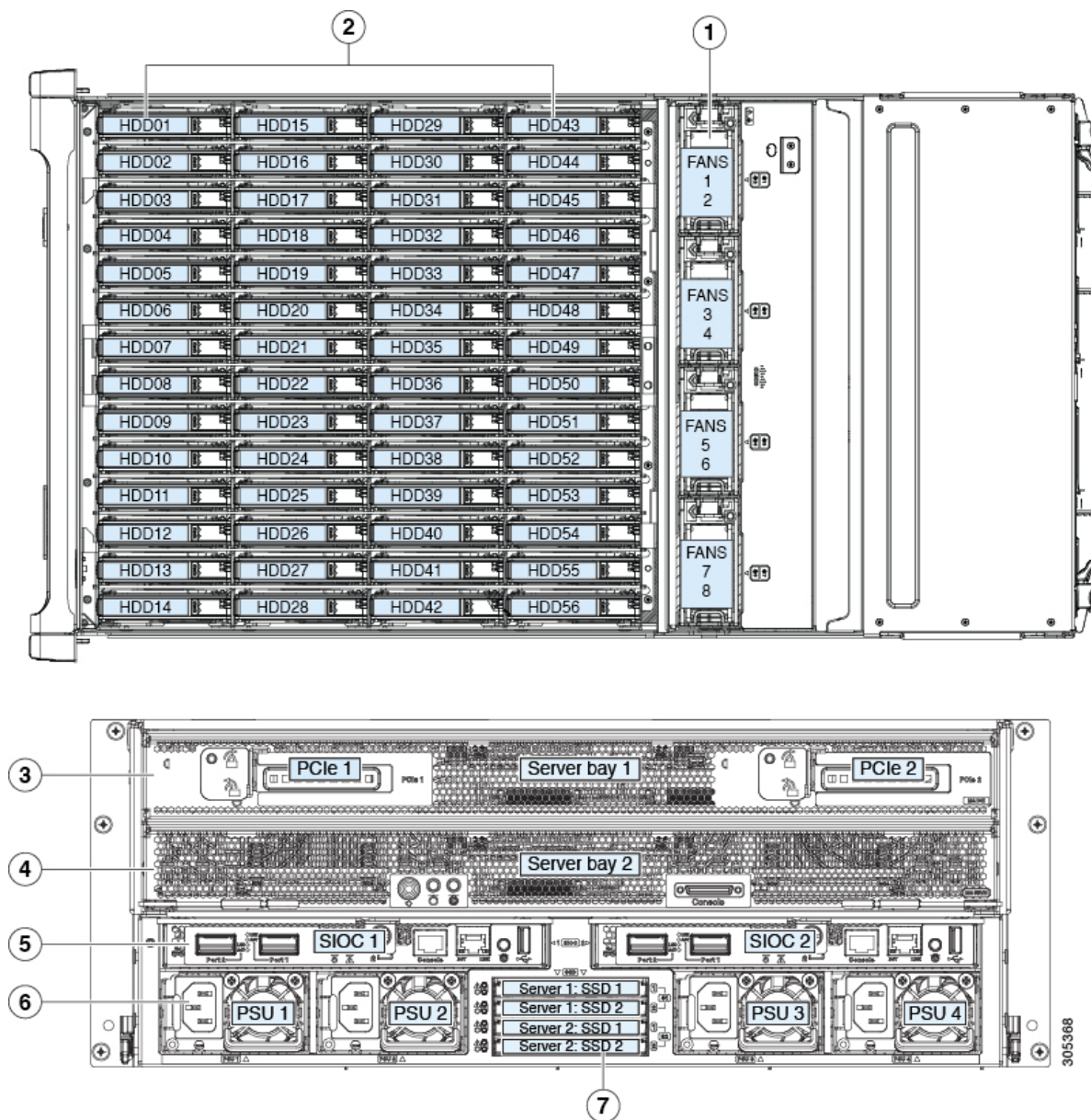


(注)

システムの内部ドライブと冷却ファンはホットスワップ可能であり、上部カバーを開くと取り付け/取り外しができます。システムをラックに収容して配線する場合には、電源コードや他のケーブルの長さに十分な余裕(スラック)を持たせてください。そのようにしておくと、システムをスライドレール上で十分に引き出して、上部カバーを開くための空間を確保できます。

■ 交換可能なコンポーネントの位置

図 1-3 主要シャーシ内で交換可能なコンポーネント (上面図と背面図)



1	ファン モジュール (4、ホットスワップ可能) 各ファン モジュールには 2 つのファンが内蔵されています。	5	システムの I/O コントローラ (SIOC) (1 つまたは 2 つ)
2	トップローディングドライブ ベイ (最大 56 台の 3.5 インチ HDD または SSD、ホットスワップ可能)	6	電源装置 (4、2+2 として冗長)
3	サーバ ベイ 1 <ul style="list-style-type: none"> (オプション) I/O エクスパンダ (図を参照) (C3X60 M4 サーバ ノードのみに搭載) (オプション) サーバ ノード 	7	2.5 インチ SAS SSD (最大 4 つ)
4	サーバ ベイ 2 <ul style="list-style-type: none"> (オプション) サーバ ノード (図の C3X60 M4) (オプション) ドライブ エクスパンダ モジュール 		

C3X60 M4 サーバ ノード内のコンポーネント

サーバ ノード内の交換可能コンポーネントの場所については、ご使用のサーバ ノードのサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

I/O エクスパンダ内のコンポーネント

C3X60 M4 サーバ ノードに、サーバ ノードの上部に接続する、オプションの I/O エクスパンダが含まれる場合があります。I/O エクスパンダ内の交換可能コンポーネントの場所については、ご使用のサーバ ノードのサービス ノートを参照してください。

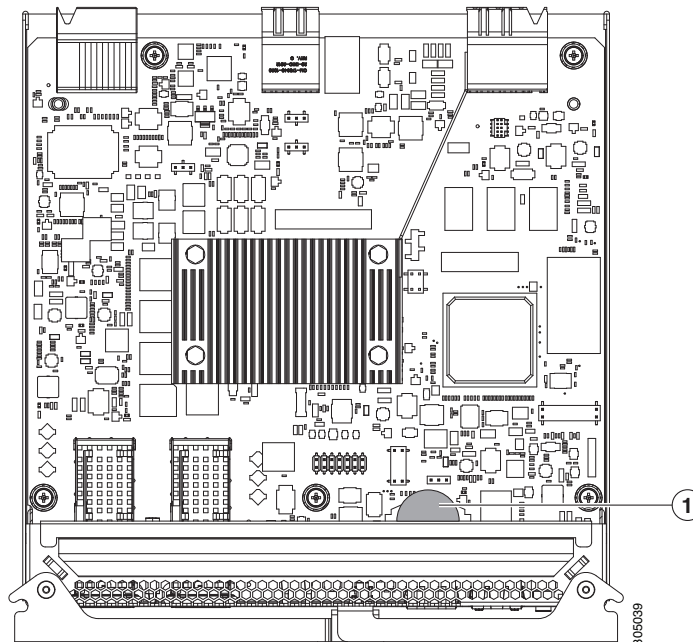
- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

システムの I/O コントローラ内のコンポーネント

ここでは、シャーシの背面からアクセス可能な、システム I/O コントローラ (SIOC) 内にある交換可能なコンポーネントの位置を示します。以下の図は、モジュールのカバーを取り外した状態を示します。

Cisco UCS C3260 SIOC には Cisco UCS VIC 1300 シリーズの内蔵型チップが組み込まれているため、リムーバブル アダプタ カードはありません。

図 1-4 システムの I/O コントローラ内で交換可能なコンポーネント



1	RTC バッテリ CR1632
---	-----------------

Cisco UCS C3260 アーキテクチャの概要

ここでは、システムの管理およびデータ アーキテクチャーの構成をハードウェアの観点から概説します。

管理アーキテクチャ

このシステムは、シャード管理コントローラ (CMC) を使用してサーバ ノードを管理します。各システム I/O コントローラ (SIOC) モジュールには、内蔵型 CMC が組み込まれています。2 つの SIOC を使用する場合、2 つの CMC がアクティブ/スタンバイ構成で機能します。Cisco IMC インターフェイスでログインしている SIOC 内の CMC がアクティブ CMC になります。アクティブ CMC を使用して、両方のサーバ ノードのボード管理コントローラ (BMC) を管理できます。

Cisco IMC インターフェイスを使用してサーバ ノードの BMC を管理するためにシステムに接続する際は、SIOC 上のポートに物理的に接続することになります。Cisco IMC インターフェイスにログインする場合は、システム管理 IP アドレスを使用します。各 CMC と各 BMC には、内部通信のための IP アドレスもあります。

すべてのユーザ インターフェイスは、アクティブ CMC でのみ動作します。構成の変更は、アクティブ CMC とスタンバイ CMC の間で自動的に同期されます。

次のいずれかの条件が発生すると、アクティブ CMC はスタンバイ CMC にフェールオーバーします。

- アクティブ CMC のリポートまたは障害が発生した場合。
- アクティブ CMC を持つ SIOC が取り外された場合。
- アクティブ CMC でネットワーク接続が失われた場合。

図 1-5 に、2 つのサーバ ノードが搭載されたシステムの例を示します。このシステムでは、両方の SIOC に SFP+ ポートへの物理的な接続がありますが、SIOC 1 CMC が両方のサーバ ノードを管理するアクティブな CMC になります。

図 1-5 管理アーキテクチャ

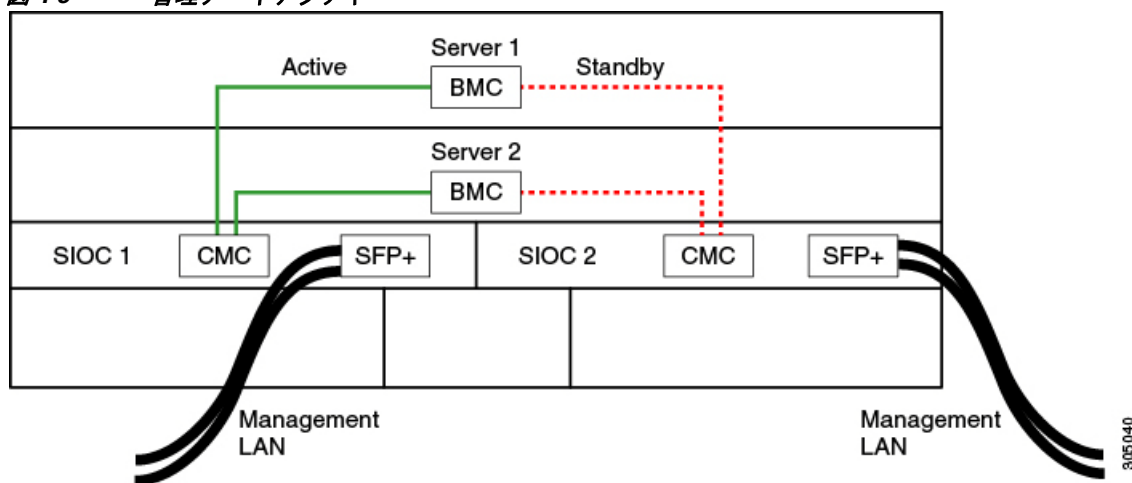
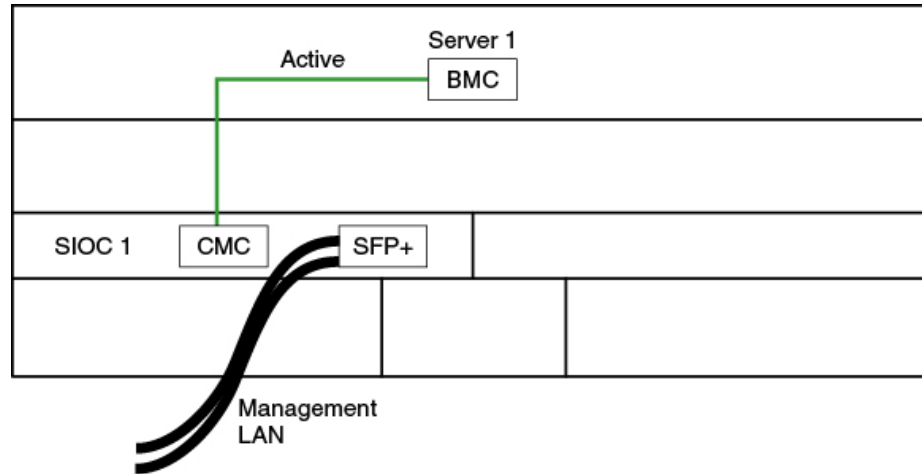


図 1-5 に、サーバ ノードが 1 つと SIOC が 1 つ搭載されたシステムの例を示します。この場合、スタンバイやフェールオーバーはありません。

図 1-6 管理アーキテクチャ



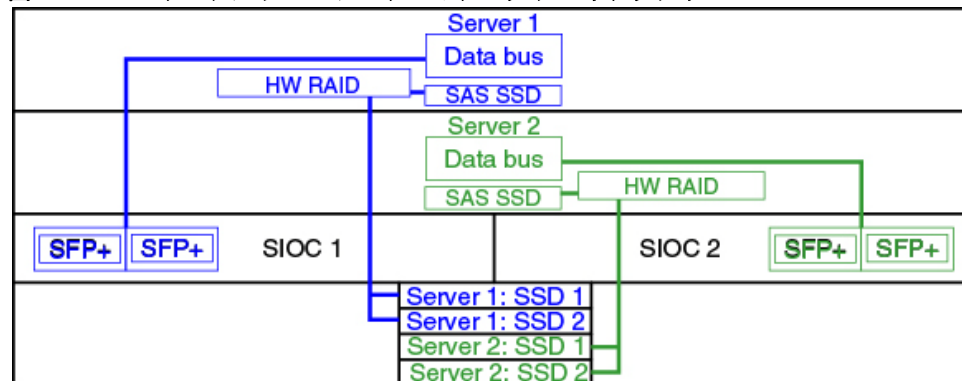
305407

データ アーキテクチャ

データプレーン アーキテクチャでのコンポーネント間のアソシエーションは、管理プレーンの場合とは異なります。図 1-7 に示す図は、デュアルサーバ システムの次のアソシエーションを示しています。

- サーバ ノード 1 のデータ バスは、SIOC 1 を介して接続します。
- サーバ ノード 2 のデータ バスは、SIOC 2 を介して接続します。
- サーバ 1 の SSD 1 と SSD 2 は、サーバ ノード 1 内の RAID コントローラ カードによって制御できます。
- サーバ 2 の SSD 1 と SSD 2 は、サーバ ノード 2 内の RAID コントローラ カードによって制御できます。

図 1-7 デュアルサーバシステムのデータ アーキテクチャ

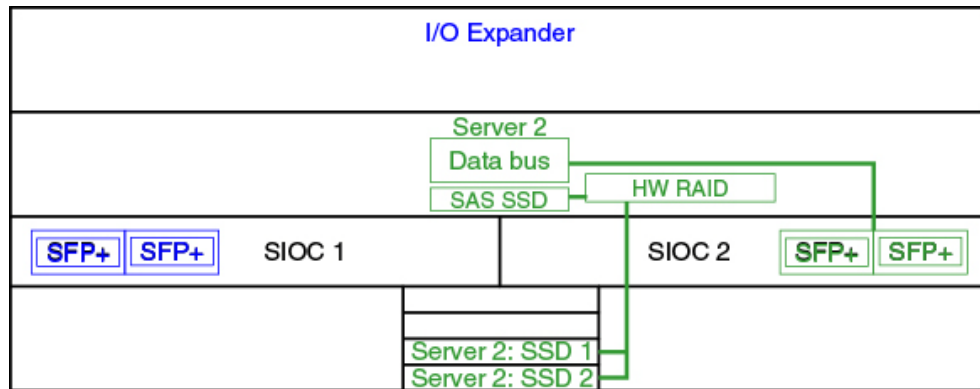


305403

図 1-8 に示す図は、シングルサーバ システムの次のアソシエーションを示しています。

- サーバ ノード 2 のデータ バスは、SIOC 2 を介して接続します。
- サーバ 2 の SSD 1 と SSD 2 は、サーバ ノード 2 内の RAID コントローラ カードによって制御できます。

図 1-8 I/O エクスパンダを備えたシングルサーバシステムのデータ アーキテクチャ



305244

システム機能の概要

表 1-1 にシステムの機能を記載します。

表 1-1 Cisco UCS C3260 システムの機能

シャーシ	4 ラックユニット (4RU) シャーシ。
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> C3X60 M3 サーバ ノード: 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v2 シリーズ プロセッサ。 C3X60 M4 サーバ ノード: 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v4 シリーズ プロセッサ。
メモリ	各サーバ ノード内で最大 16 個の DIMM。
マルチビット エラー保護	このシステムは、マルチビット エラー保護をサポートします。
ストレージ	<p>システムには次のストレージ オプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大 56 台のトップ ローディング 3.5 インチ ドライブ オプションのドライブ エクスパンダ モジュール内に最大 4 台の 3.5 インチ、リア ローディング ドライブ 最大 4 台の 2.5 インチ、リア ローディング SAS ソリッド ステート ドライブ (SSD) サーバ ノード内に 1 台の 2.5 インチ、NVMe SSD
ディスク管理	<p>このシステムは、最大 2 台のストレージ コントローラをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各サーバ ノード内に Cisco ストレージ コントローラ カード用の専用メザニン形式ソケット 1 基
RAID バックアップ	supercap 電源モジュール (SCPM) は、RAID コントローラ カードにマウントされます。
PCIe I/O	オプションの I/O エクスパンダは、8x Gen 3 PCIe 拡張スロットを 2 つ提供します。

表 1-1 Cisco UCS C3260 システムの機能(続き)

ネットワークおよび管理 I/O	<p>システムには、システム I/O コントローラ (SIOC) を 1 つまたは 2 つ搭載できます。それにより、背面パネル管理とデータ接続が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none">• SIOC ごとに 2 つの SFP+ 40 Gb ポート• SIOC ごとに 1 つの 10/100/1000 イーサネット専用管理ポート <p>サーバノードごとに、KVM ケーブルで 2 つの USB を接続できる 1 つの背面パネル KVM コネクタ、1 つの VGA DB-15 コネクタ、1 つのシリアル DB-9 コネクタがあります。</p>
電源	2 台または 4 台の電源装置、各 1050 W (ホットスワップ可能で 2+2 冗長)。
冷却	<p>前面から背面に冷却を引き出す 4 つの内蔵ファンモジュール、ホットスワップ可能。各ファンモジュールには 2 つのファンが内蔵されています。</p> <p>さらに、各電源にはファンが 1 個あります。</p>
ベースボード管理	<p>Cisco Integrated Management Controller (Cisco IMC) ファームウェア。</p> <p>Cisco NIC モードの設定に応じて、Cisco IMC へのアクセスには、SIOC 専用管理ポートまたは SIOC SFP+ ポートを使用できます。</p> <p>管理アーキテクチャ(1-6 ページ)も参照してください。</p>



システムのインストール

この章では、サーバの設置方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- システムの開梱と点検(2-1 ページ)
- システムの設置準備(2-2 ページ)
- ラックへのシステムの設置(2-4 ページ)
- システムの初期セットアップ(2-9 ページ)
- NIC モードおよび NIC 冗長化の設定(2-15 ページ)
- システム BIOS および Cisco IMC ファームウェア(2-16 ページ)



(注)

システムの設置、操作、または保守を行う前に、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco UCS C-Series Servers*』を参照して重要な安全情報を確認してください。



警告

安全上の重要な注意事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。警告の各国語版は、各注意事項の番号を基に、装置に付属の「Translated Safety Warnings」を参照してください。

ステートメント 1071

システムの開梱と点検



注意

このシステムの重量は、コンポーネントをフル搭載した状態で約 86 kg (190 ポンド) です。システムを持ち上げるときは、2 人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を 1 人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。システムを移動するときには、ハードドライブなどのコンポーネントを一時的に取り外すことを検討してください。



注意

内部システム コンポーネントを取り扱うときは、静電気防止用ストラップを着用し、モジュールのフレームの端のみを持つようにしてください。



(注) シャーシは厳密に検査したうえで出荷されています。輸送中の破損や内容品の不足がある場合には、ただちにカスタマー サービス担当者に連絡してください。

- ステップ 1** 段ボール箱からシステムを取り出します。梱包材はすべて保管しておいてください。
- ステップ 2** カスタマー サービス担当者から提供された機器リストと梱包品の内容を照合します。すべての品目が揃っていることを確認してください。
- ステップ 3** 破損の有無を調べ、内容品の間違いや破損がある場合には、カスタマー サービス担当者に連絡してください。次の情報を用意しておきます。
- 発送元の請求書番号(梱包明細を参照)
 - 破損している装置のモデルとシリアル番号
 - 破損状態の説明
 - 破損による設置への影響

システムの設置準備

ここでは、システムの設置準備について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [設置に関するガイドライン\(2-2 ページ\)](#)
- [ラックに関する要件\(2-3 ページ\)](#)
- [工具の要件\(2-3 ページ\)](#)
- [スライド レールの調整範囲\(2-3 ページ\)](#)

設置に関するガイドライン



警告 システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 35° C (95° F) を超えるエリアで操作しないでください。
ステートメント 1047



警告 いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。
ステートメント 1019



警告 この製品は、設置する建物に短絡(過電流)保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が 250 V、15 A 以下であることを確認します。
ステートメント 1005



警告 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。
ステートメント 1074

システムを設置するには、次のガイドラインに従ってください。

- システムを設置する前に、設置場所を検討して準備します。設置場所を計画する際に推奨される作業については、『*Cisco UCS Site Preparation Guide*』を参照してください。
- システムの周囲に、保守作業および十分な通気を行えるスペースがあることを確認します。このシステムでのエアフローは、前面から背面に流れます。
- 空調が、[システムの仕様\(A-1 ページ\)](#)に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、[ラックに関する要件\(2-3 ページ\)](#)に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、[システムの仕様\(A-1 ページ\)](#)に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置(UPS)を使用できます。

ラックに関する要件

ここでは、標準的なオープン ラックに関する要件を示します。この要件は、周囲温度が 41°F ~ 95°F (5°C ~ 35°C) の範囲にあることを前提とします。

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準的な 19 インチ (48.3 cm) 幅 4 支柱 EIA ラック (ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサルピッチに適合するマウント支柱付き)。
- 付属のスライド レールを使用する場合、ラック支柱の穴は、0.38 インチ (9.6 mm) の正方形、0.28 インチ (7.1 mm) の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- 各システムの縦方向のラック スペースとして、少なくとも 2 RU、つまり 7 インチ (17.78 cm) を確保する必要があります。

工具の要件

このシステム用にシスコから提供されるスライド レールの場合、設置先のラックに 0.38 インチ (9.6 mm) の正方形、0.28 インチ (7.1 mm) の丸形、または #12-24 UNC のネジ穴があれば、設置用の工具は必要ありません。

スライド レールの調整範囲

このシステムのスライド レールの調整範囲は 26 ~ 36 インチ (660 ~ 914 mm) です。

ケーブル マネジメント アームの寸法

オプションのケーブル マネジメント アーム (CMA) を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- サーバの背面から CMA の背面までの距離は、137.4 mm (5.4 インチ) 追加されます。
- CMA を含むサーバの全長は、874 mm (34.4 インチ) です。

ラックへのシステムの設置

ここでは、次の内容について説明します。

- スライド レールの取り付け (2-4 ページ)
- ケーブル マネジメント アーム (省略可能) の取り付け (2-7 ページ)
- ケーブル マネジメント アーム (省略可能) の取り付けを逆にする (2-9 ページ)



警告

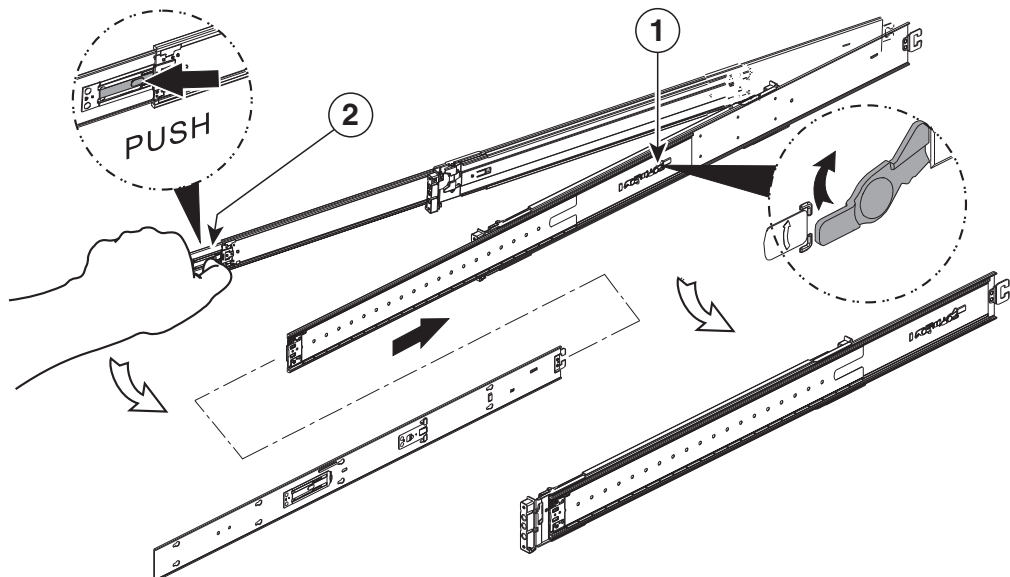
ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。次のガイドラインは、安全に作業を行ってもらうために用意してあります。この装置がラックに搭載する唯一の装置である場合は、ラックの一番下に取り付けてください。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。ステートメント 1006

スライド レールの取り付け

- ステップ 1** スライド レール アセンブリの内側レールを取り外します (図 2-1 を参照)。
- レールのリリース ラッチの後部を押し下げ、内側レールを止まるまで引き出します。
 - 内側レールのリリース クリップを押し下げたまま、レール アセンブリから内側レールを引き出します。

図 2-1 アセンブリからの内側レールの取り外し

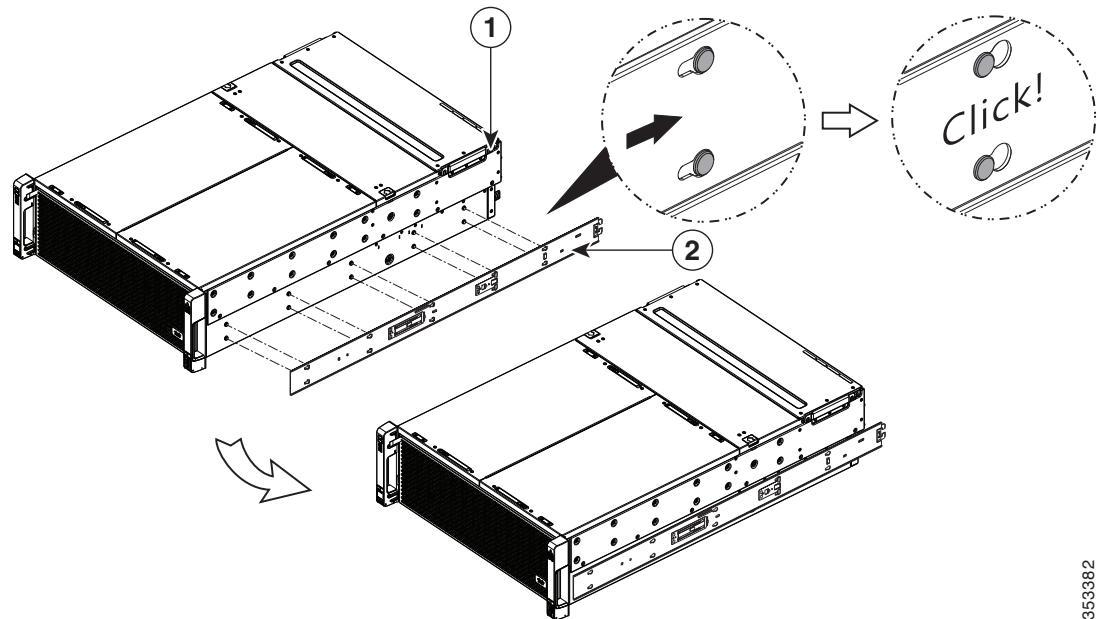


1	レールのリリースラッチ(クローズアップビュー)	2	内側レールのリリース クリップ
---	-------------------------	---	-----------------

353381

- ステップ 2** システムの側面に内側レールを取り付けます(図 2-2 を参照)。
- レール内の 10 個の鍵付きスロットがシステムの側面にある 10 個のペグと整列するように、システムの片側に内側レールの位置を合わせます。
 - 鍵付きのスロットをペグ上に設定し、レールを後方にスライドしてペグ上の所定の位置に固定します。
 - 2 つ目の内側レールをシステムの反対側に取り付けます。

図 2-2 システムの側面への内側レールの装着

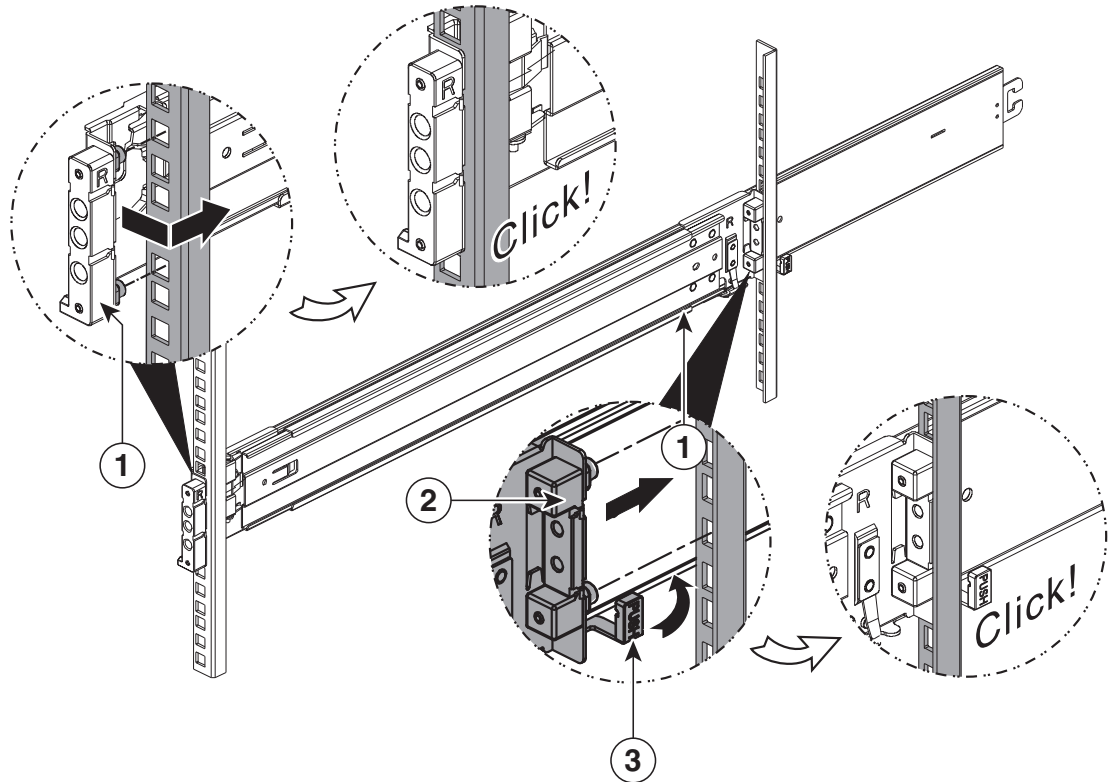


353382

1	システム背面	2	内側レール
---	--------	---	-------

- ステップ 3** スライド レールをラックに取り付けます(図 2-3 を参照)。
- 片側のスライド レール部品的前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。
スライド レールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。
 - カチッと音がしてロックされるまで、ラック支柱の穴に前側の取り付けペグを押し込みます。
 - 背面ラック支柱が完全に水平になるようにスライド レールの長さを調整します。
 - 背面ペグのスプリング ラッチを外し、背面の取り付けペグを背面ラック支柱の穴に押し込みます。
背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
 - 背面ペグのスプリング ラッチを外し、背面ペグを所定の位置に固定します。
 - 2 つ目のスライド レール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2 つのスライド レール部品が同じ高さであり、水平になっていることを確認します。

図 2-3 ラック支柱へのレール アセンブリの取り付け



353383

1	前面の取り付けペグ。外側の前部からラック支柱の穴に入れます。	3	背面ペグのスプリング ラッチ
2	背面の取り付けペグ。後方内部からラック支柱の穴に入れます。		

ステップ 4 所定の位置に収まって留まるまで、各アセンブリの中間スライド レールをラック前方へ引き出します(図 2-4 を参照)。

ステップ 5 内側レールを取り付けたシステムを中間レール内に差し込みます。

**注意**

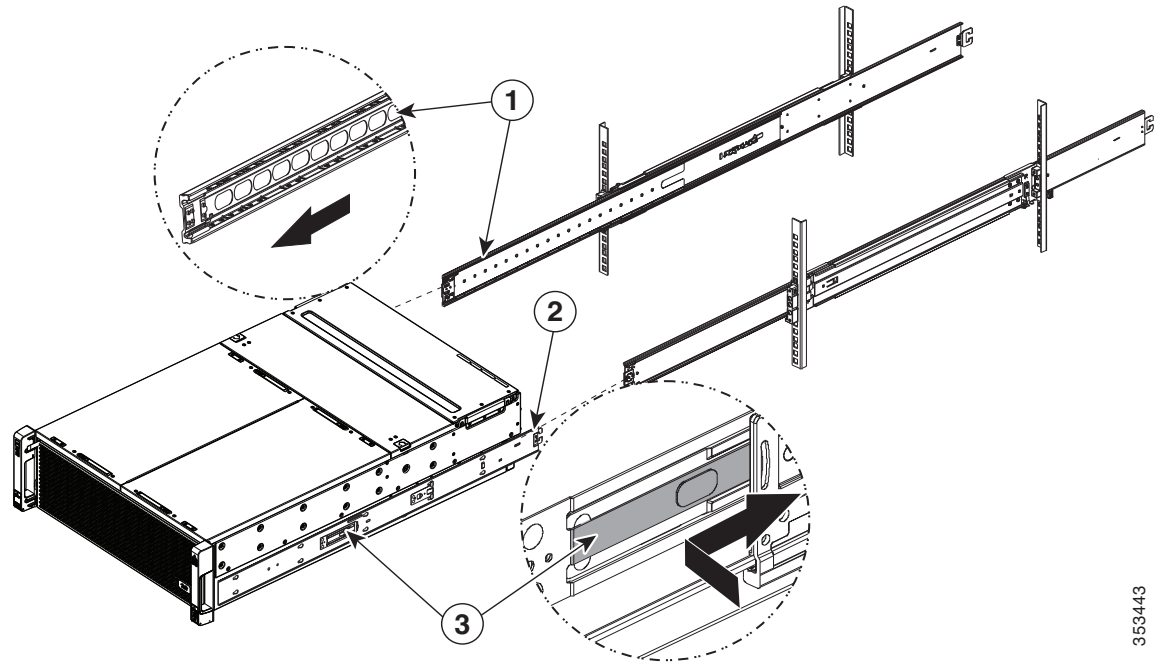
このシステムの重量は、コンポーネントをフル搭載した状態で約 86 kg (190 ポンド) です。システムを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を 1人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。システムを移動するときには、ハードドライブなどのコンポーネントを一時的に取り外すことを検討してください。

- システムの側面に装着されている内側レールの後部を、ラック上の空の中間レールの前部に合わせます。
- 内部の停止位置に収まるまで、システムを中間レールに押し込みます。
- 各内側レールのリリース クリップを内側に押し下げ、前面スラム ラッチがラック支柱とかみ合うまで、システムをラック内に押し込み続けます(図 2-4 を参照)。

**注意**

ラックにシステムを押し込む前に、リリース クリップが両方とも外れていることを確認します。レールを損傷しないように、ゆっくりとシステムをレールに押し込みます。

図 2-4 ラック支柱へのレール アセンブリの取り付け



353443

1	外部レールから引き出した中間レール	3	内側レールのリリースクリップ
2	システムに取り付けた内側レール		

- ステップ 6** (任意) スライド レールに付属の 2 本のネジを使用して、システムをしっかりとラック内に固定します。たとえば、システムを設置したラックを移動する場合に、これらのネジを取り付けます。システムをスライド レールに完全に押し込んだ状態で、システム前面のヒンジ付きスラム ラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、システムが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラム ラッチについても行ってください。

**注意**

システムをラックの外に引き出すと、内部ロック停止位置で停止します。ラックからシステムを取り外すのでない限り、内側レールのリリースクリップを押し下げないでください(図 2-4 を参照)。内側レールのリリースクリップを押し下げると、中間レールの全長にわたってシステムがスライドするため、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

ケーブル マネジメント アーム(省略可能)の取り付け

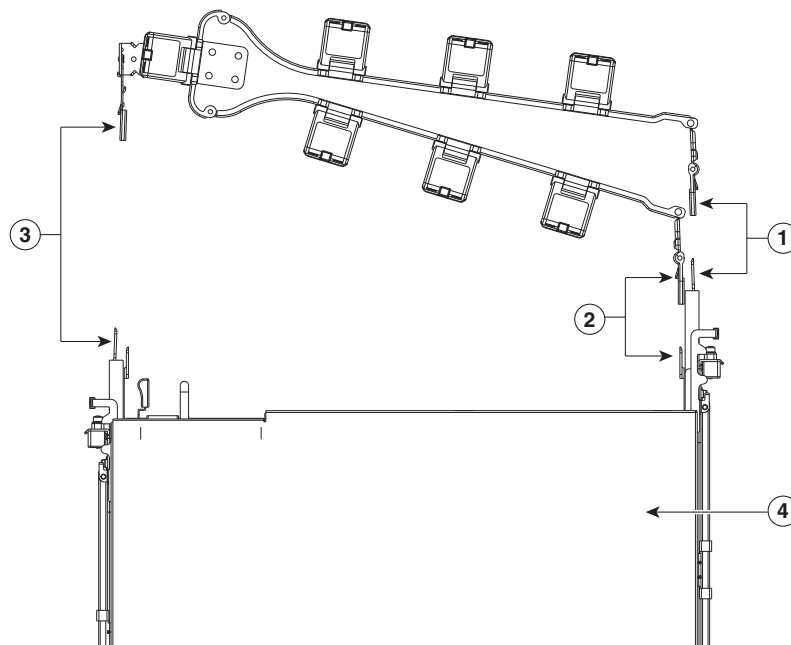
**(注)**

システムの内部ドライブと冷却ファンはホットスワップ可能であり、上部カバーを開くと取り付け/取り外しができます。システムをラックに収容して配線する場合には、電源ケーブルや他のケーブルの長さに十分な余裕(スラック)を持たせてください。そのようにしておくと、システムをスライド レール上で十分に引き出して、上部カバーを開くための空間を確保できます。

CMA は左右逆に取り付けることができます。CMA を逆に取り付けるには、取り付ける前に **ケーブル マネジメント アーム(省略可能)** の取り付けを逆にする(2-9 ページ) を参照してください。

- ステップ 1** システムをラックに完全に押し込んだ状態で、システムから最も離れた CMA アームの CMA タブを、ラック支柱に装着された固定スライド レールの終端にスライドさせます(図 2-5 を参照)。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 2** システムに最も近い CMA タブを、システムに装着された内側レールの終端にスライドさせます(図 2-5 を参照)。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 3** ラックの幅に一致するまで、CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを引き出します(図 2-5 を参照)。
- ステップ 4** 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に装着された固定スライド レールの終端にスライドさせます(図 2-5 を参照)。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 5** 各プラスチック製ケーブル ガイドの上部でヒンジ付きフラップを開き、必要に応じてケーブル ガイドを通してケーブルを配線します。

図 2-5 スライドレールの背面へのケーブル マネジメント アームの装着

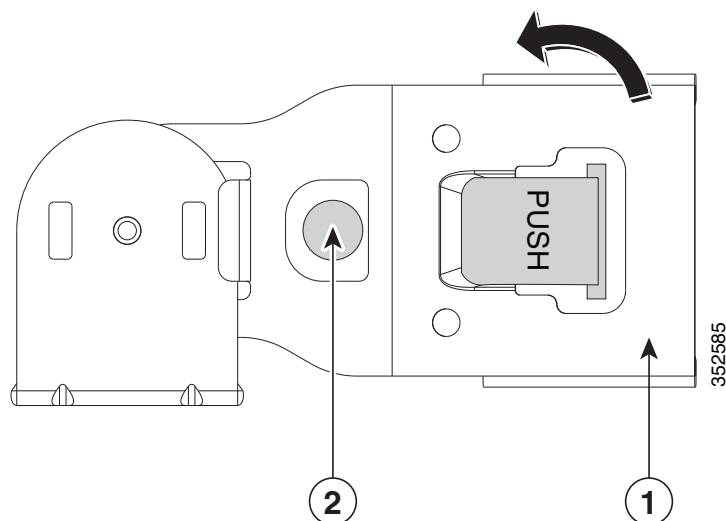


1	システムから最も離れたアームの CMA タブと外側の固定スライド レールの終端	3	幅調整スライダの CMA タブと外側の固定スライド レールの終端
2	システムに最も近いアームの CMA タブとシステムに装着された内側のスライドレールの終端	4	システム背面

ケーブル マネジメント アーム(省略可能)の取り付けを逆にする

- ステップ 1** CMA アセンブリ全体を 180 度回転させます。プラスチック製ケーブル ガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。
- ステップ 2** システムの背面を向くように、各 CMA アームの終端でタブを反転させます。
- ステップ 3** 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、システムの背面を向くようにタブを 180 度回転させます。

図 2-6 CMA の反転



1	幅調整スライダの終端の CMA タブ	2	回転用金属ボタン
---	--------------------	---	----------

システムの初期セットアップ

以下に示すのは、セットアップ手順の概要と、各手順について説明しているこのドキュメントのセクションです。

- 作業を開始する前に、デフォルトのネットワーク設定を確認します。
[デフォルトのネットワーキング設定\(2-10 ページ\)](#)
- 5 つの IP アドレスを設定するという要件に注意します。
[システム IP アドレス\(2-10 ページ\)](#)
- DHCP サーバの使用を計画している場合は、その要件を確認します。
[DHCP の要件\(2-10 ページ\)](#)
- ケーブルを接続してシステムの電源を入れ、Cisco IMC 設定ユーティリティを開始します。
[システムの接続とセットアップユーティリティの起動\(2-11 ページ\)](#)
- Cisco IMC 設定ユーティリティを使用してネットワーク設定を行います。
[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ\(2-13 ページ\)](#)
- スタティック IP のみ: Cisco IMC 管理インターフェイスを使用して、CMC および BMC の IP アドレスを設定します。
[CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定\(2-15 ページ\)](#)

デフォルトのネットワーク設定

システムは次の設定で出荷されます。

- デフォルトの NIC モードは、[Cisco Card] です。いずれかの SIOC 上の SFP+ ポートが、Cisco Integrated Management Controller (Cisco IMC) インターフェイスへのアクセスに使用されます。Cisco IMC へのアクセスに 10/100/1000 専用管理ポートを使用する場合は、システムに接続し、[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(2-13 ページ\)](#) の説明に従って NIC モードを *専用* に変更できます。
- デフォルトの NIC の冗長性は *active-active* です。
- DHCP は、デフォルトではイネーブルです。
- IPv4 は、デフォルトではイネーブルです。

システム IP アドレス

Cisco UCS C3260 システムは、最大 5 つの IP アドレスを設定できます。



(注) システム内に存在するすべてのコントローラは、相互に通信するために、割り当てられた IP アドレスが必要です。すべての IP アドレスは DHCP サーバで割り当てることができます。ユーザが固定 IP アドレスを割り当てすることもできます。

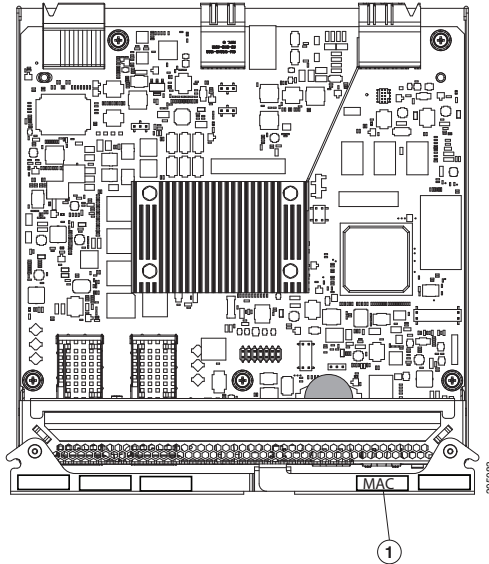
- **管理 IP:** これは、システム全体の仮想 IP アドレスです。このアドレスには、システムの Cisco IMC インターフェイスに、SIOC 1 または SIOC 2 のアクティブ シャーシ管理コントローラへの LAN 接続経由でアクセスするときにログインします ([Cisco UCS C3260 アーキテクチャの概要 \(1-6 ページ\)](#) を参照)。
- **SIOC 1 CMC IP:** これは SIOC 1 のシャーシ管理コントローラ (CMC) の内部アドレスです。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- **SIOC 2 CMC IP:** これは SIOC 2 の CMC の内部アドレスです (インストールされている場合)。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- **サーバ 1 BMC IP:** これはサーバ ノード 1 のボード管理コントローラ (BMC) の内部アドレスです。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- **サーバ 2 BMC IP:** これはサーバ ノード 2 の BMC の内部アドレスです (インストールされている場合)。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。

DHCP の要件

システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。DHCP サーバには、システム I/O コントローラ (SIOC) 内のシャーシ管理コントローラ (CMC) の MAC アドレス範囲があらかじめ設定されている必要があります。各 SIOC には、割り当てられた一連の 6 つの MAC アドレスがあります。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスの最初の部分を定義しているものです。

MACアドレスはSIOCリリースレバーのラベルに印字されています(図 2-7 を参照)。SIOC がシステムにインストールされている場合、ラベルを確認するには、レバーをわずかに開く必要があります。

図 2-7 MAC アドレスのラベル



1	SIOC のリリースレバー上の MAC アドレスのラベル
---	------------------------------

システムの接続とセットアップユーティリティの起動

この手順では、システム全体を管理するために使用する管理 IP アドレスを割り当てる方法を示します。また、Cisco IMC 設定ユーティリティの初期設定について説明します。



(注)

40G から 10G までのスプリッタ ケーブルを使用する場合、関連する Nexus スイッチ上の 4 つの各 10G グループに対してポート チャネルを使用し、STP 遷移時間を削減するように各ポートチャネルで「spanning-tree port type edge trunk」を設定する必要があります。

ステップ 1 電源コードをシステムの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。初回のブート時には、サーバ ノードが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。

システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます(図 1-1(1-1 ページ) を参照)。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ 2 システムの背面にあるいずれかのサーバ ノードの KVM コネクタに KVM ケーブル(Cisco PID N20-BKVM)を接続します(図 2-8 を参照)。

ステップ 3 USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。

ステップ 4 両方の SIOC で SFP+ ケーブルを SFP+ コネクタに接続します(図 2-8 を参照)。



(注)

専用の管理ポートを使用してサーバを管理するように NIC モードを変更することを計画している場合は、さらに SIOC 上で RJ-45 イーサネット ケーブルを管理ポートに接続します(図 2-8 を参照)。

ステップ 5 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、システムを起動します。

ステップ 6 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

- a. 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、システムを起動します。F8 を押すようにとのプロンプト画面が表示されるのを待ちます。
- b. ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。
このユーティリティには 3 つのウィンドウがあり、F1 または F2 を押すことで切り替えることができます。

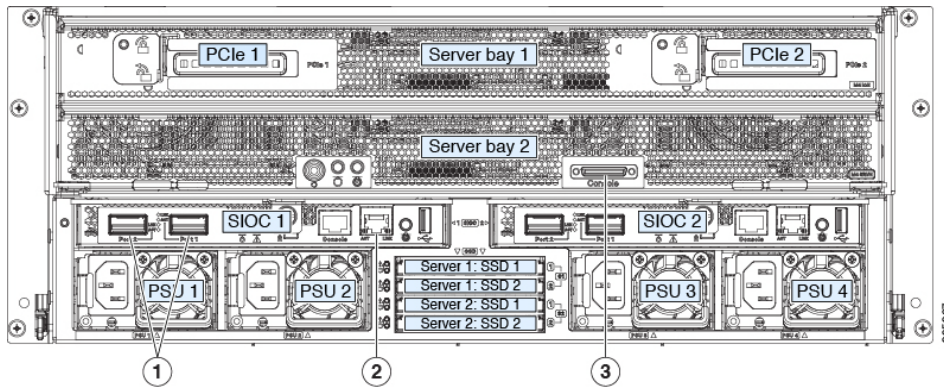


(注)

Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 7 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ(2-13 ページ)に進みます。

図 2-8 セットアップ用の背面パネルコネクタ



1	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	3	各サーバ ノードの KVM コンソール コネクタ
2	10/100/1000 専用管理ポート		

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

システムに接続して、起動時に F8 を押して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

ステップ 1 NIC モードと NIC 冗長性を設定します。

- a. [NIC Mode]: NIC モードは、Cisco IMC 管理インターフェイスのアクセスに使用するポートを選択するために設定します。
 - [Cisco Card] (デフォルト): アクティブな SIOC 上の SFP+ ポートが、Cisco IMC にアクセスするために使用されます。NIC 冗長化設定を選択する必要があります。
 - [Dedicated]: Cisco IMC へのアクセスには、アクティブな SIOC の専用 RJ-45 管理ポートが使用されます。この NIC モードの唯一の NIC 冗長化設定は、[None] です。
 - [Active SIOC Slot]: この値は変更できません。このフィールドは、どの SIOC/シャーシ管理コントローラがアクティブであるかを示します。2 つの SIOC は、active-standby フェールオーバー関係で動作します(管理アーキテクチャ(1-6 ページ)を参照)。
- b. [NIC redundancy]: 次の 3 つの NIC 冗長化設定を使用できます。
 - [Active-active] (デフォルト): すべての SFP+ ポートが同時に使用されます。この設定は、NIC モードが [Cisco Card] である場合のみ使用できます。
 - [Active-standby]: アクティブな SFP+ ポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。この設定は、NIC モードが [Cisco Card] である場合のみ使用できます。
 - [None]: ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。

ステップ 2 IPv4 (デフォルト) を使用するか、または IPv6 を使用するかを選択します。

IPv6 の使用を選択した場合、IPv4 の詳細は、画面のスペース制約により非表示になります。

ステップ 3 DHCP のイネーブル (デフォルト) を維持するか、またはディセーブルにしてスタティック ネットワーク設定を入力するかを選択します。



(注) DHCP サーバを使用しており、SFP+ ケーブルが SIOC に接続されていれば、管理 IP アドレスとネットワーク設定はすでに入力されています。DHCP をディセーブルにする場合は、ユーザ固有のスタティック管理 IP アドレスとネットワーク設定を設定する必要があります。

スタティック IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- 管理 IP アドレス (Cisco IMC インターフェイスへのアクセスに使用するアドレス)。
- プレフィックス/サブネット。
IPv6 の場合、有効な値は 1 ~ 127 です。
- ゲートウェイ。
IPv6 の場合、ゲートウェイがわからない場合は、:: (コロン 2 つ) を入力して none のままに設定することができます。
- 優先 DNS サーバアドレス。
IPv6 の場合、:: (コロン 2 つ) を入力してこれを none のままに設定することができます。

ステップ 4 任意: このユーティリティを使用して、VLAN 設定を行います。



(注) ウィンドウを切り替える前に、F10 を押して変更内容を保存します。

- ステップ 5** **F1** を押して 2 番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。
2 番目のウィンドウで **F2** を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。
- ステップ 6** 任意: ホスト名を設定します。
- ステップ 7** 任意: ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。
- ステップ 8** 任意: [Factory Default] チェックボックスには、次の 2 つのオプションがあります。
- [Server Controller Configuration]: 選択したサーバ ノードはその工場出荷時のデフォルト状態に戻され、選択したサーバ/ホストがリブートします。
 - [Chassis Controller Configuration]: SIOC 内のどちらの CMC も工場出荷時のデフォルト状態に設定されます。
- ステップ 9** 任意: デフォルトのユーザ パスワードを設定します。
- ステップ 10** 任意: ポートで自動ネゴシエーション機能を使用しないようにする場合は、SIOC 上の 10/100/1000 専用管理ポートのポート プロパティを設定します。
- ステップ 11** 任意: ポート プロファイルとポート名をリセットします。



(注) ウィンドウを切り替える前に、**F10** を押して変更内容を保存します。

- ステップ 12** **F1** を押して 3 番目の設定ウィンドウに移動し、次のステップに進みます。
3 番目のウィンドウで **F2** を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。
- ステップ 13** (任意) SIOC SFP+ ポートのポート速度を 40 Gbps または 4x10 Gbps に設定します。
[Adapter-1] は SIOC 1 を意味し、[Adapter-2] は SIOC 2 を意味します (存在する場合)。



(注) システムが Cisco IMC 2.0(9) 以降を実行している場合、デフォルトの設定は [Auto] であり、導入されているネットワークを自動的に調整します。



(注) 40G から 10G までのスプリッタ ケーブルを使用する場合、関連する Nexus スイッチ上の 4 つの各 10G グループに対してポート チャネルを使用し、STP 遷移時間を削減するように各ポート チャネルで「spanning-tree port type edge trunk」を設定する必要があります。

- ステップ 14** **F5** を押して設定を更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「ネットワーク設定が設定されました (Network settings configured)」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。その後、次のステップでサーバを再起動します。
- ステップ 15** **F10** を押して設定を保存し、サーバをリブートします。



(注) DHCP をイネーブルのままにしておくことを選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

- ステップ 16** サーバ ノードから KVM ケーブルを取り外します。




(注) SIOC の各 CMC とサーバ ノードの各 BMC には、システムが稼働するために、割り当てられた内部 IP アドレスが必要です ([システム IP アドレス \(2-10 ページ\)](#) を参照)。DHCP をイネーブルにすると、DHCP サーバがそれらのアドレスを割り当てるので、追加の手順は不要です。

- ステップ 17** スタティック IP を設定する (DHCP がディセーブルである) 場合にのみ実行する手順: CMC および BMC の内部 IP アドレスを、[CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定 \(2-15 ページ\)](#) の説明に従って、Cisco IMC インターフェイスを使用して設定します。

CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定



- (注)** DHCP をイネーブルのままにしておく場合、DHCP サーバが CMC と BMC の IP アドレスを設定するので、これらの手順は不要です。スタティック IP アドレスを手動で設定する場合にのみ、以下の手順を実行します。

- ステップ 1** ブラウザとシステム管理 IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続します。
- ステップ 2** ログイン ページにログインします。システムのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルトパスワードは *password* です。
[Chassis/Summary] ページが開きます。管理 IP アドレスが表示されます。各 CMC の IP アドレスは、DHCP サーバによって割り当てられている場合にのみ、この時点で表示されます。
- ステップ 3** 左上隅のメニュー ボタンをクリックし、 [Admin] > [Networking] を選択します。
[Networking/Network Settings] ページが開きます。
- ステップ 4** [Individual Settings] 領域までスクロールダウンします。
- ステップ 5** CMC1、CMC2、BMC1、BMC2 用のスタティック IP アドレスを入力します。



- (注)** 選択可能なすべてのコンポーネント IP アドレスは、一緒に設定して設定を完了する必要があります。部分的にしか設定しない場合、エラーが発生し、その部分的な設定は保存されません。

この作業は、管理 GUI または CLI インターフェイスを使用して実行できます。詳細については、『[Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller GUI Configuration Guide for C3260 Servers](#)』または『[Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller CLI Configuration Guide for C3260 Servers](#)』を参照してください。各種構成ガイドのリストは [こちら](#) です。

NIC モードおよび NIC 冗長化の設定

NIC モード

次の NIC モード設定から選択できます。

- [Cisco Card] (デフォルト): アクティブな SIOC 上の SFP+ ポートが、Cisco IMC にアクセスするために使用されます。NIC 冗長化設定を選択する必要があります。
- [Dedicated]: いずれかの SIOC の専用 RJ-45 管理ポートが、Cisco IMC にアクセスするために使用されます。この NIC モードの唯一の NIC 冗長化設定は、[None] です。

NIC 冗長化

次の NIC 冗長設定から選択できます。

- [Active-active](デフォルト):すべての SFP+ ポートが同時に使用されます。この設定は、NIC モードが [Cisco Card] である場合のみ使用できます。
- [Active-standby]:アクティブな SFP+ ポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。この設定は、NIC モードが [Cisco Card] である場合のみ使用できます。
- [None]:ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。

システム BIOS および Cisco IMC ファームウェア

ここでは、システム BIOS について説明します。次の項目を取り上げます。

- [BIOS および Cisco IMC ファームウェアの更新\(2-16 ページ\)](#)
- [システム BIOS へのアクセス\(2-17 ページ\)](#)

BIOS および Cisco IMC ファームウェアの更新



注意

BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、システムが起動しません。BIOS と Cisco IMC ファームウェアが一致するまでシステムの電源をオンにしないでください。この状態でオンにすると、システムがブートしなくなります。

システムには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェア イメージと共にリリース ノートを提供しています。ファームウェアを更新するには、いくつかの方法があります。

- 推奨される方法: Cisco Host Upgrade Utility を使用して、Cisco IMC、BIOS、および他のコンポーネント ファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードします。
ファームウェア レベルについては、下記のマニュアル ロードマップ リンクにある『*Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide*』を参照してください。
- EFI インターフェイスを使用して BIOS をアップグレードするか、Windows または Linux プラットフォームからアップグレードします。
『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server BIOS Upgrade Guide*』を参照してください。
- Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。
『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide*』を参照してください。
- Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。
『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers CLI Configuration Guide*』を参照してください。
- Cisco IMC XML API インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。
『*Cisco UCS Rack-Mount Servers CIMC XML API Programmer's Guide*』を参照してください。

上記のマニュアルへのリンクについては、次の URL にあるマニュアル ロードマップを参照してください。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

システム BIOS へのアクセス



(注) BIOS 設定の詳細が [BIOS] ウィンドウに表示されます。

ステップ 1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。



(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

ステップ 2 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。

ステップ 3 矢印キーを使用して、変更するフィールドを強調表示させます。

ステップ 4 Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。

ステップ 5 Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

ステップ 6 Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップ ユーティリティを終了します(または、F10 を押します)。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。



システムのメンテナンス

この章では、システムの問題を診断するための LED の使用方法と、サポートされているハードウェア コンポーネントの取り付けまたは交換方法について説明します。

- [ステータス LED およびボタン \(3-1 ページ\)](#)
- [システム コンポーネントの取り付けまたは交換の準備 \(3-9 ページ\)](#)
- [システム コンポーネントの取り付けまたは交換 \(3-14 ページ\)](#)
- [サーバ ノード ボードのサービス ヘッダー \(3-34 ページ\)](#)

ステータス LED およびボタン

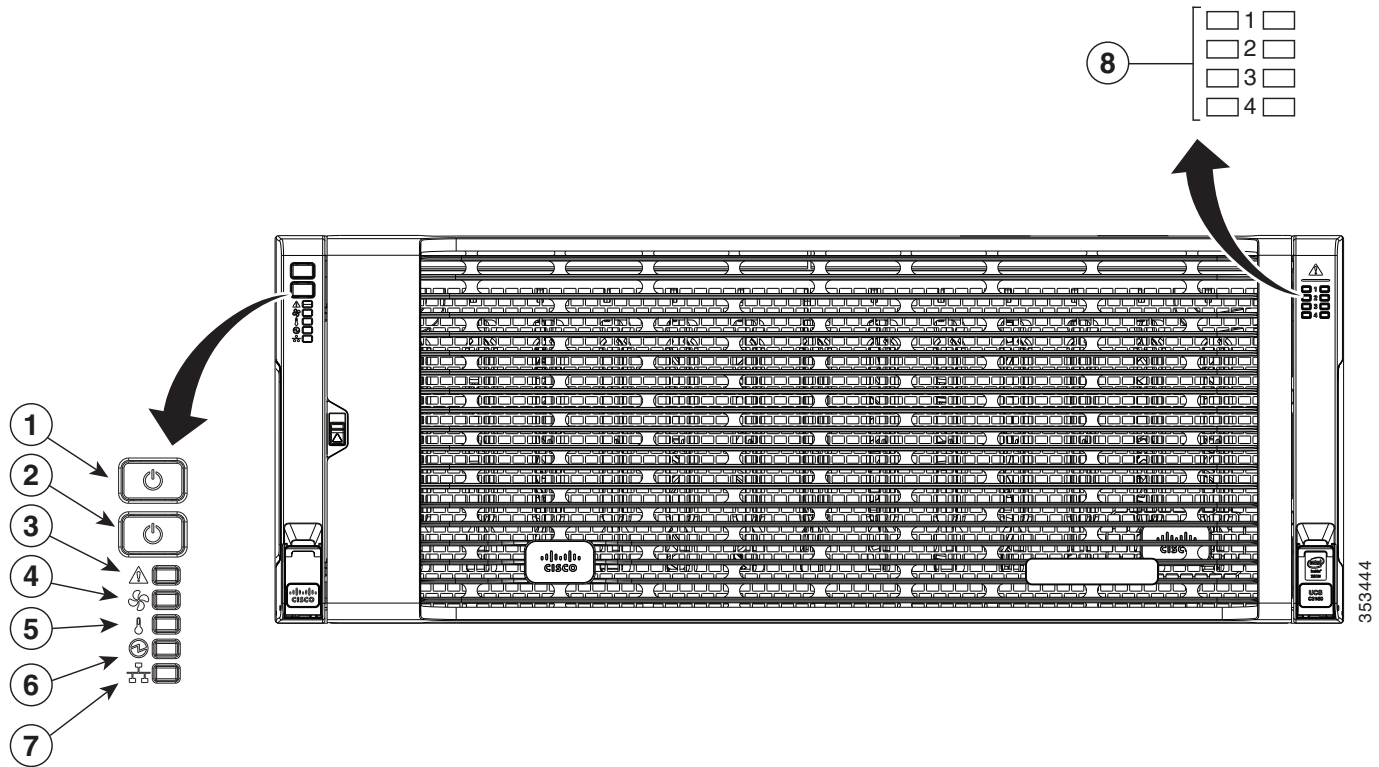
ここでは、LED とボタンの位置と意味について説明します。内容は次のとおりです。

- [前面パネルの LED \(3-1 ページ\)](#)
- [背面パネルの LED およびボタン \(3-4 ページ\)](#)
- [内部診断 LED \(3-7 ページ\)](#)

前面パネルの LED

[図 3-1](#) は前面パネルの LED を示しています。[表 3-1](#) には前面パネルの LED の状態が定義されています。

図 3-1 前面パネルの LED



1	システム電源ボタンと電源ステータス LED	5	温度ステータス LED
2	システム ユニット識別ボタンと LED	6	電源装置ステータス LED
3	システム ステータス LED	7	ネットワーク リンク アクティビティ LED
4	ファン ステータス LED	8	内蔵ドライブのステータス LED

表 3-1 前面パネルの LED の状態

LED 名	状態
1 システム電源ボタン/電源ステータス LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: システムに AC 電力が供給されていません (すべての電源コードが抜かれています)。 オレンジ: 両方のサーバ ノードの電源がオフになっています。ボタンを押すと、両方のサーバ ノードの電源がオンになります。 緑: 少なくとも 1 台のサーバ ノードの電源がオンになっています。ボタンを押すと、両方のサーバ ノードの電源がオフになり、LED がオレンジ色に戻ります。
2 システムのユニット 識別	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: ユニット識別 LED は使用されていません。 青の点滅: ユニット識別 LED がアクティブです。

表 3-1 前面パネルの LED の状態(続き)

LED 名	状態
3 システム ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 緑:システムは正常動作状態で稼働しています。 緑の点滅:システムは、システム初期化およびメモリ チェックを実行しています。 オレンジの点灯:システムは縮退運転しています。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> 電源装置の冗長性が失われている(電源装置のプラグが抜かれているか、障害が発生している)。 CPU が一致しない。 少なくとも 1 つの CPU に障害が発生している。 少なくとも 1 つの DIMM に障害が発生している。 RAID 構成内の少なくとも 1 台のドライブに障害が発生している。 オレンジの点滅:システムでは重大な障害が発生しています。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ブートに失敗した。 修復不能な CPU またはバス エラーが検出された。 システムが過熱状態にある。
4 ファン ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 緑:すべてのファン モジュールが正常に動作中です。 オレンジの点灯:1 つのファン モジュールに障害が発生しています。 オレンジの点滅:重大な障害。2 つ以上のファン モジュールに障害が発生しています。
5 温度ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 緑:システムは正常温度で稼働中です。 オレンジの点灯:1 つ以上の温度センサーが警告しきい値を超過しています。 オレンジの点滅:1 つ以上の温度センサーが重大しきい値を超過しています。
6 電源装置ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 緑:すべての電源装置が正常に動作中です。 オレンジの点灯:1 台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。(イベント警告しきい値に達しましたが、電源装置は動作し続けています)。 オレンジの点滅:1 台以上の電源装置が重大な障害発生状態にあります。(重大障害しきい値に達し、電源装置がシャットダウンしています)。
7 ネットワーク リンク アクティブ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:イーサネット リンクがアイドル状態です。 緑:1 つ以上のイーサネット LOM ポートでリンクがアクティブになっています。 緑の点滅:1 つ以上のイーサネット LOM ポートでトラフィックがアクティブになっています。

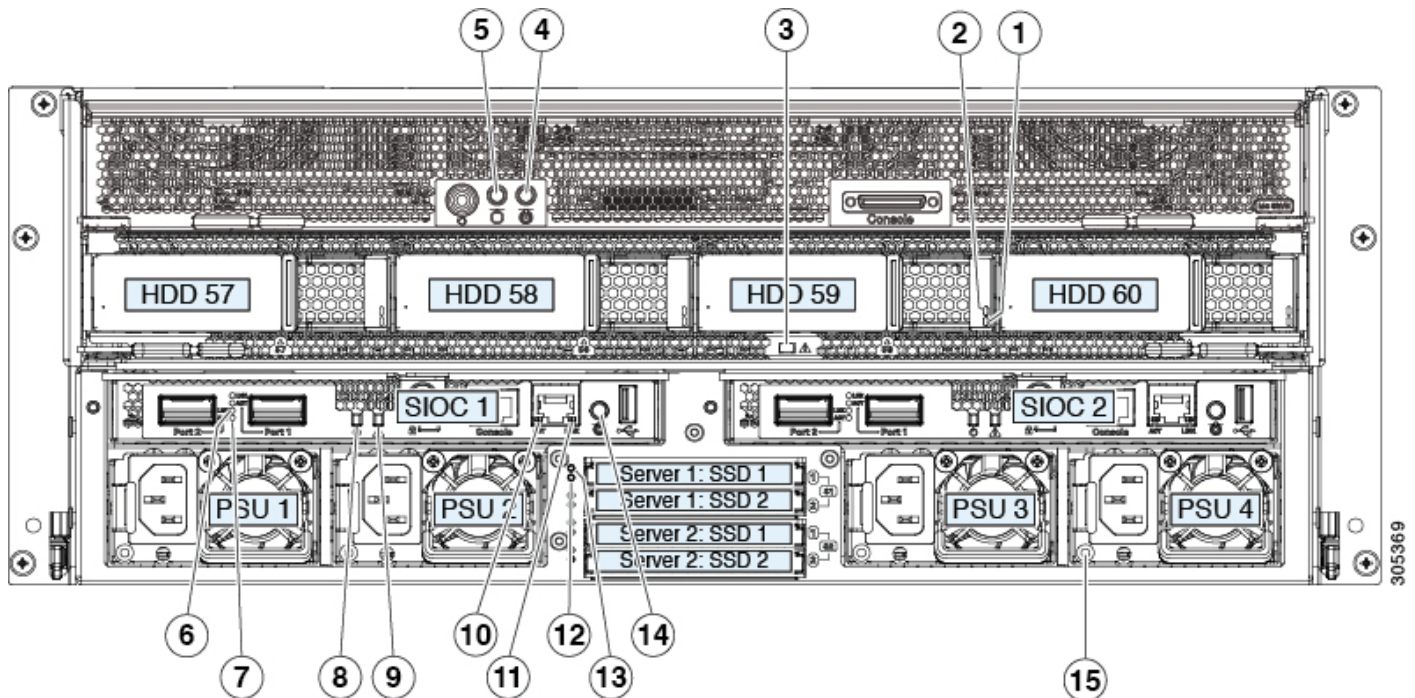
表 3-1 前面パネルの LED の状態(続き)

LED 名	状態
8 内蔵ドライブのステータス LED	<p>障害の発生しているドライブの場所を特定するには、これらの LED を使用します。次に、システムのカバーを開き、ドライブトレイの LED を見て、障害の発生しているドライブを正確に特定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 列の LED は内蔵ドライブのコンパートメントの両半分に対応します(上部カバーの左右どちらかの下)。 4 列の LED は、ドライブ ベイ(各行の 14 ドライブ ベイ)の 4 つの水平行に対応します。 <p>例については、図 3-7 を参照してください。この例では、赤色 LED が、障害の発生しているドライブが内蔵ドライブのコンパートメントの右半分にあることを示しています。</p>

背面パネルの LED およびボタン

[図 3-2](#) に、C3260 システムの背面パネルの LED とボタンを示します。この例では、C3X60 M4 サーバノードとオプションのドライブ拡張モジュールが付属しています。[表 3-2](#) には背面パネルの LED の状態が定義されています。

図 3-2 C3260 システムの背面パネルの LED およびボタン



1	ドライブの障害(各ドライブトレイ)	9	現時点ではサポートされていません。
2	ドライブのアクティビティ(各ドライブトレイ)	10	現時点ではサポートされていません。
3	ドライブ拡張モジュールのステータス LED	11	10/100/1000 専用管理ポート リンク アクティビティ LED
4	サーバ ノード ヘルス LED(サーバ ノードボードのメッシュ画面の背後)	12	10/100/1000 専用管理ポート リンク速度 LED
5	サーバ ノードのユニット識別ボタン/LED(各サーバ ノード上)	13	ソリッド ステート ドライブ アクティビティ LED(各ドライブ ベイ)
6	サーバ ノードの電源ボタン/LED(各サーバ ノード上)	14	ソリッド ステート ドライブ障害 LED(各ドライブ ベイ)
7	40 Gb SFP+ ポート リンク LED(各ポート上)	15	現時点ではサポートされていません。
8	40 Gb SFP+ ポート アクティビティ LED(各ポート上)	16	電源装置ステータス LED(各電源装置)

表 3-2 背面パネルの LED の状態

LED 名	状態
1 ドライブの障害 (ドライブがドライブ拡張モジュールに取り付けられている場合のみ)	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:ドライブは正常に動作中です。 オレンジ:このドライブに障害が発生しています。 オレンジの点滅:デバイスの再構成中です。
2 ドライブ アクティビティ (ドライブがドライブ拡張モジュールに取り付けられている場合のみ)	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:ドライブトレイにドライブが存在しません(アクセスなし、障害なし)。 緑:ドライブの準備が完了しています。 緑の点滅:ドライブはデータの読み取り中または書き込み中です。
3 ドライブ拡張モジュールのステータス LED	この LED には、取り付けられているドライブのエラーやモジュールのエラーが示されます。LED の見方については、表 3-3 を参照してください。

■ ステータス LED およびボタン

表 3-2 背面パネルの LED の状態(続き)

LED 名	状態
4 サーバ ノードの状態 LED	<ul style="list-style-type: none"> 緑:サーバ ノードは正常に動作中です。 緑色で点滅:サーバはスタンバイ モードまたはスリープ状態です。 オレンジ:サーバ ノードは縮退運転しています。縮退運転状態は、次の1つ以上の状態として定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> 電源装置の冗長性の損失(電源装置のプラグが抜かれているか、障害が発生している) SIOC の冗長性の損失 CPU の障害または不一致 DIMM エラー RAID 構成内でのドライブの障害 オレンジの点滅:サーバ ノードで重大な障害が発生しています。重大な障害の状態は次のように定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> ブートの失敗 修復不能な CPU またはバス エラーが検出された 致命的で修正不可能なメモリエラーが検出された 両方の SIOC に障害が発生した RAID 構成の両方のドライブに障害が発生した 過熱状態
5 サーバ ノードのユニット識別ボタン/LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:ID LED は使用されていません。 青:ID LED がアクティブです。
6 サーバ ノードの電源ボタン/LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:サーバ ノードに AC 電力が供給されていません。シャーシからサーバ ノードを安全に取り外せます。 オレンジ:サーバ ノードはスタンバイ電源モードです。Cisco IMC にだけ電力が供給されます。シャーシからサーバ ノードを安全に取り外せます。 緑:サーバ ノードは主電源モードです。すべてのサーバ ノード コンポーネントに電力が供給されています。
7 40 Gb SFP+ ポート リンク LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:リンクなし。 緑:リンクが確立されています。
8 40 Gb SFP+ ポート アクティビティ LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:リンクが確立されていません。 緑:リンクは存在しますが、アクティビティがありません。 緑の点滅:リンクが存在し、アクティビティがあります。
9 現時点ではサポートされていません。	
10 現時点ではサポートされていません。	
11 10/100/1000 専用管理リンク アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:リンクが確立されていません。 緑:リンクは存在しますが、アクティビティがありません。 緑色の点滅:リンクが存在し、アクティビティがあります。
12 10/100/1000 専用管理リンク速度	<ul style="list-style-type: none"> 消灯:リンク速度は 10/100 Mbps です。 緑:リンク速度は 1 Gbps です。

表 3-2 背面パネルの LED の状態(続き)

LED 名	状態
13 ソリッド ステート ドライブ アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> オフ: 接続されているドライブはありません。 緑: ドライブが接続されていますが、アクティビティはありません。 緑の点滅: ドライブはデータの読み取り中または書き込み中です。
14 ソリッド ステート ドライブ 障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: ドライブは正常に動作中です。 オレンジ: このドライブで障害が発生しました(またはロケート機能がこのドライブでアクティブになっています)。
15 現時点ではサポートされていません。	
16 電源装置ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: AC 電源入力なし。 緑の点灯: 電源装置は正常に動作していて、システムに DC 電力が供給されています。 緑の点滅: AC 電源に問題はありません。DC 出力が有効ではありません(スリープモード)。 オレンジの点滅: イベント警告しきい値に達しましたが、電源装置は動作し続けています。 オレンジの点灯: 重大障害しきい値に達し、電源装置がシャットダウンしています。

表 3-3 ドライブ拡張モジュールのステータス LED

LED ステータス	P3V3	P5V	HDD あり	HDD ステータス
消灯	消灯	なし	なし	なし
オレンジ	オン	オン	プラグインなし	なし
オレンジ	点灯	Fail	プラグインなし	なし
グリーン	点灯	オン	プラグイン	Good
オレンジ	オン	オン	プラグイン	Fail

内部診断 LED

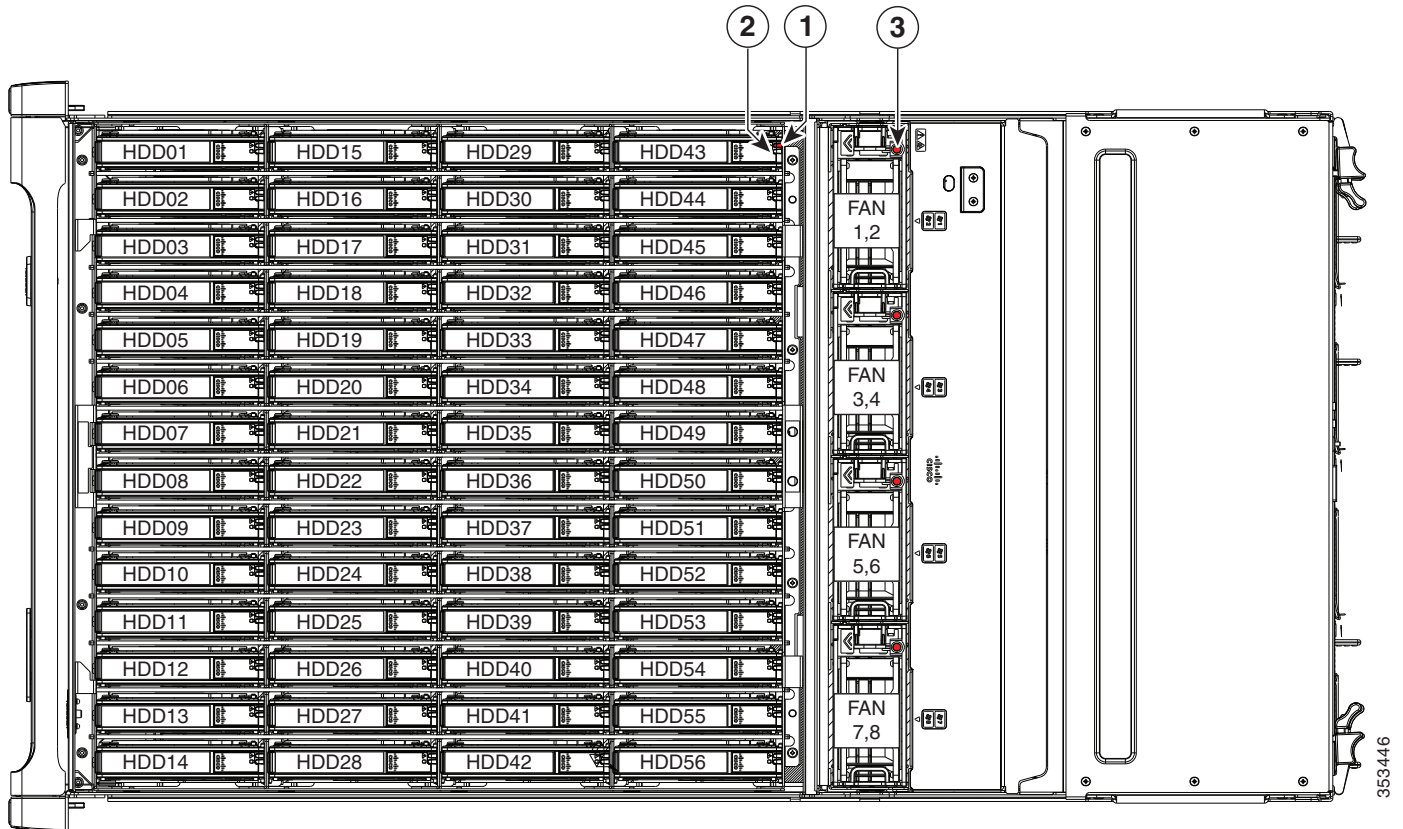
ここでは、次の内容について説明します。

- [主要シャーシの診断 LED \(3-8 ページ\)](#)
- [サーバ ノードの診断 LED \(3-9 ページ\)](#)

主要シャーシの診断 LED

システムの電源が入っているときに、主要シャーシのコンパートメント内の診断 LED を表示できます。これらの内部 LED の位置については、[図 3-3](#) を参照してください。LED の状態の定義については、[表 3-4](#) を参照してください。

図 3-3 主要シャーシの内部診断 LED の位置



1	ドライブの障害(各ドライブ キャリア)	3	ファン モジュール障害(各ファン モジュール)
2	ドライブ アクティビティ(各ドライブ キャリア)		

表 3-4 内部診断 LED の状態

LED 名	状態
1 SAS ドライブの障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: ドライブは正常に動作中です。 オレンジ: このドライブに障害が発生しています。 オレンジの点滅: デバイスの再構成中です。

表 3-4 内部診断 LED の状態(続き)

LED 名	状態
2 SAS ドライブ アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: ドライブトレイにドライブが存在しません(アクセスなし、障害なし)。 緑: ドライブの準備が完了しています。 緑の点滅: ドライブはデータの読み取り中または書き込み中です。
3 ファン障害 LED	<ul style="list-style-type: none"> 消灯: コンポーネントは正常に機能しています。 オレンジ: コンポーネントに障害が発生しています。

サーバノードの診断 LED

サーバノード内の内部診断 LED の位置については、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

システムコンポーネントの取り付けまたは交換の準備

ここでは、コンポーネントの取り付け準備について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [メンテナンス手順に必要な工具\(3-9 ページ\)](#)
- [C3260 システムのシャットダウンおよび電源オフ\(3-9 ページ\)](#)
- [個々のサーバノードのシャットダウン\(3-10 ページ\)](#)
- [シャーシとコンポーネントのカバーの取り外し\(3-11 ページ\)](#)

メンテナンス手順に必要な工具

この章の手順を実行するには、次の工具を使用します。

- No. 2 プラスドライバ(CPU ヒートシンクのネジ用)
- No. 1 プラスドライバ(SIOC カバーのネジ用)
- 1/4 インチ、または同等のマイナスドライバ(サーバノードからオプションの I/O エクステンダを取り外すため)
- 静電気防止用(ESD)ストラップまたは接地マットなどの接地用器具

C3260 システムのシャットダウンおよび電源オフ

Cisco IMC インターフェイスか、前面パネルのシステム電源ボタンのいずれかを使用して、グレースフルシャットダウンまたは C3260 システム全体のハードシャットダウンを実行できます。



注意

システムから完全に電源を取り外すには、すべての電源装置から電源コードを取り外す必要があります。

■ システムコンポーネントの取り付けまたは交換の準備

また、システム全体ではなく、個々のサーバノードをシャットダウンすることもできます。[個々のサーバノードのシャットダウン\(3-10 ページ\)](#)を参照してください。

システムの電源ボタンを使用してシャーシをシャットダウンするには、次の手順に従います。

- ステップ 1** システム電源ステータス LED の色を確認します([前面パネルの LED\(3-1 ページ\)](#)を参照)。
- ・ 緑:少なくとも 1 台のサーバノードの電源がオンになっています。[ステップ 2](#)に進みます。
 - ・ オレンジ:両方のサーバノードの電源がオフになっています。[ステップ 3](#)に進みます。
- ステップ 2** 次のようにして、グレースフルシャットダウンまたはハードシャットダウンを実行します。

**注意**

データの損失やオペレーティングシステムへの損傷が発生しないようにするために、必ずオペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを実行するようにしてください。

- ・ グレースフルシャットダウン:電源ボタンを押して放します。サーバノード上のオペレーティングシステムにより、両方のサーバノードのグレースフルシャットダウンが実行されます。
- ・ 緊急シャットダウン:電源ボタンを 4 秒間押し続けて、両方のサーバノードの電源を強制的にオフにします。

- ステップ 3** 完全に AC 電源を切断してシステムシャーシの電源をオフにするには、システムのすべての電源装置から電源コードを抜きます。

個々のサーバノードのシャットダウン

Cisco Integrated Management Controller(Cisco IMC) インターフェイスか、サーバノード前面にある電源ボタンのいずれかを使用して、グレースフルシャットダウンまたはサーバノードのハードシャットダウンを実行できます。

Cisco IMC GUI を使用したサーバノードのシャットダウン

Cisco IMC GUI を使用してサーバノードをシャットダウンするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ブラウザでシステムの管理 IP アドレスを使用して、Cisco IMC GUI にログインします。
- ステップ 2** [Navigation] ペインの [Chassis] メニューをクリックします。
- ステップ 3** [Chassis] メニューの [Summary] をクリックします。
- ステップ 4** 作業ウィンドウ上部のツールバーで、[Host Power] リンクをクリックします。
- [Server Power Management] ダイアログが開きます。このダイアログには、システム内にあるすべてのサーバが表示されます。
- ステップ 5** [Server Power Management] で、シャットダウンするサーバに関して次のいずれかのボタンを選択します。

**注意**

データの損失やオペレーティングシステムへの損傷が発生しないようにするために、必ずオペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを実行するようにしてください。ファームウェアや BIOS のアップグレードが進行中のときは、サーバの電源を切らないでください。

- ・ シャットダウン:オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを実行します。
- ・ 電源オフ:選択したサーバでタスクが実行中でも、電源を切ります。

[Chassis Status] ペインで、取り外すサーバ ノードの電源状態がオフと表示されている場合は、安全にサーバ ノードをシャーシから取り外せます。

シャーシからサーバ ノードを安全に取り外せる状態になると、サーバ ノード前面の物理的な電源ボタンもオレンジに変わります。

サーバ ノードの電源ボタンを使用したサーバ ノードのシャットダウン

サーバ ノードの物理的な電源ボタンを使用して、サーバ ノードのみをシャットダウンするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** サーバ ノードの電源ステータス LED の色を確認します。
- 緑:サーバ ノードの電源がオンになっています。**ステップ 2** に進みます。
 - オレンジ:サーバ ノードの電源がオフになっています。シャーシからサーバ ノードを安全に取り外せます。
- ステップ 2** 次のようにして、グレースフル シャットダウンまたはハード シャットダウンを実行します。



注意

データの損失やオペレーティング システムへの損傷が発生しないようにするために、必ずオペレーティング システムのグレースフル シャットダウンを実行するようにしてください。ファームウェアや BIOS のアップグレードが進行中のときは、サーバの電源を切らないでください。

- グレースフル シャットダウン: **電源** ボタンを押して放します。ソフトウェアがサーバ ノードのグレースフル シャットダウンを実行します。
- 緊急シャットダウン: **電源** ボタンを 4 秒間押し続けて、サーバ ノードの電源を強制的にオフにします。

サーバ ノードの電源ボタンがオレンジに変われば、シャーシからサーバ ノードを安全に取り外せます。

シャーシとコンポーネントのカバーの取り外し

ここでは、次の内容について説明します。

- 主要シャーシの上部カバーを開く (3-11 ページ)
- サーバ ノード カバーの取り外し (3-13 ページ)
- I/O エクスパンダのカバーの取り外し (C3X60 M4 サーバ ノードのみ) (3-13 ページ)
- ノードからの I/O エクスパンダの取り外し (C3X60 M4 サーバ ノードのみ) (3-13 ページ)
- システム I/O コントローラ (SIOC) のカバーの取り外し (3-13 ページ)

主要シャーシの上部カバーを開く

このシステムには、主要シャーシのヒンジ付き上部カバーが 3 つ付いています。これらのカバーを開くと、内蔵ドライブのコンパートメントおよびファン モジュール コンパートメントにアクセスできます。

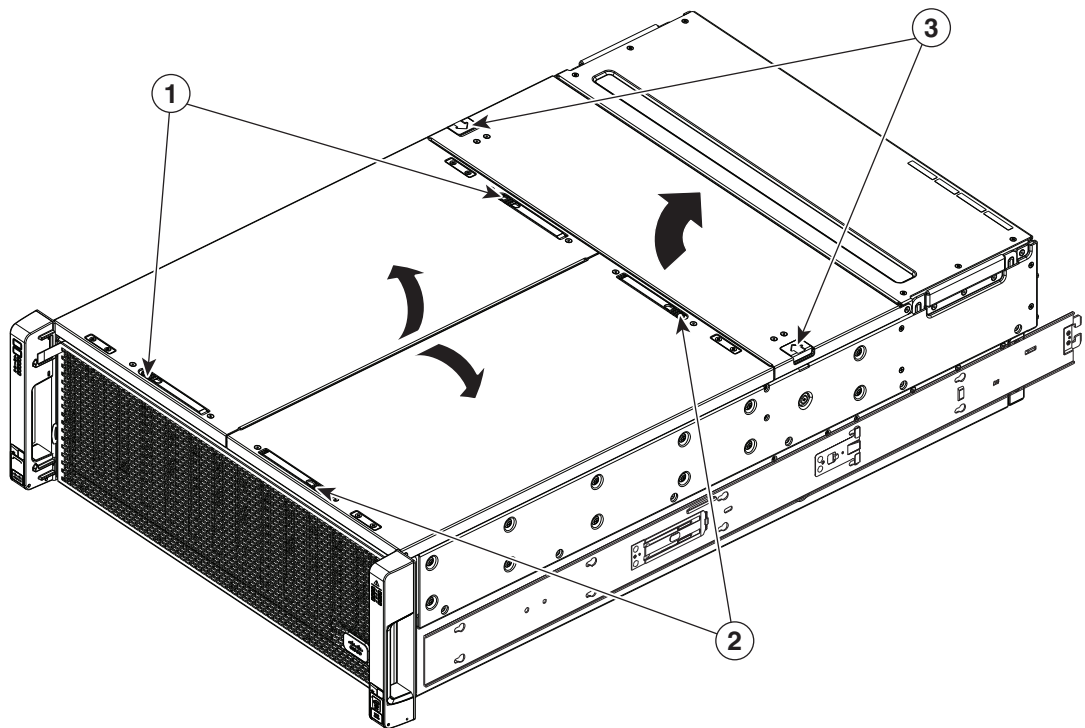


(注)

システムの内部ドライブと冷却ファンはホットスワップ可能であり、上部カバーを開くと取り付け/取り外しができます。システムをラックに収容して配線する場合には、電源ケーブルや他のケーブルの長さに十分な余裕(スラック)を持たせてください。そのようにしておくと、システムをスライド レール上で十分に引き出して、上部カバーを開くための空間を確保できます。

- ステップ 1** 左右の内蔵ドライブのコンパートメントのカバーを開き、ホットスワップ可能な内蔵ドライブにアクセスします。
- 右側面または左側面のカバーの場合は、両方のラッチのラッチ リリース ボタンをシャーシの外縁に向けて引き出します。これにより、バネ式ラッチが現れます。
 - 両方のラッチを開いた状態で、ヒンジの付いたカバーを中心から外側に向けて回転させて開きます。
 - カバーを固定するには、カバーを閉じて平らにし、次に、両方のラッチをカチッと音がしてロックされるまで水平に押します。
- ステップ 2** ファン コンパートメントのカバーを開き、ホットスワップ可能なファン モジュールにアクセスします。
- 両方のラッチ ボタンを中央方向に押します。
 - 両方のラッチ ボタンを押しながら、中心から背面に向けてヒンジの付いたカバーを開きます。
 - カバーを固定するには、カバーを閉じて平らにししながら、両方のラッチ ボタンを押します。ラッチ ボタンを放します。

図 3-4 主要シャーシの上部カバーを開く



1	左側の内蔵ドライブのコンパートメントに対応するラッチ リリース ボタン	3	ファン コンパートメントに対応するラッチ リリース ボタン
2	右側の内蔵ドライブのコンパートメントに対応するラッチ リリース ボタン		

353448

サーバノードカバーの取り外し

サーバノードのカバーを取り外すには、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

I/O エクスパンダのカバーの取り外し (C3X60 M4 サーバノードのみ)

I/O エクスパンダは C3X60 M4 サーバノードと同じカバーを使用します。I/O エクスパンダは C3X60 M4 サーバノードの上部に接続しています。

I/O エクスパンダのカバーを取り外すには、C3X60 M4 サーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

ノードからの I/O エクスパンダの取り外し (C3X60 M4 サーバノードのみ)

サーバノード内のコンポーネントにアクセスできるように C3X60 M4 サーバノードから I/O エクスパンダを取り外すには、C3X60 M4 サーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

システム I/O コントローラ (SIOC) のカバーの取り外し



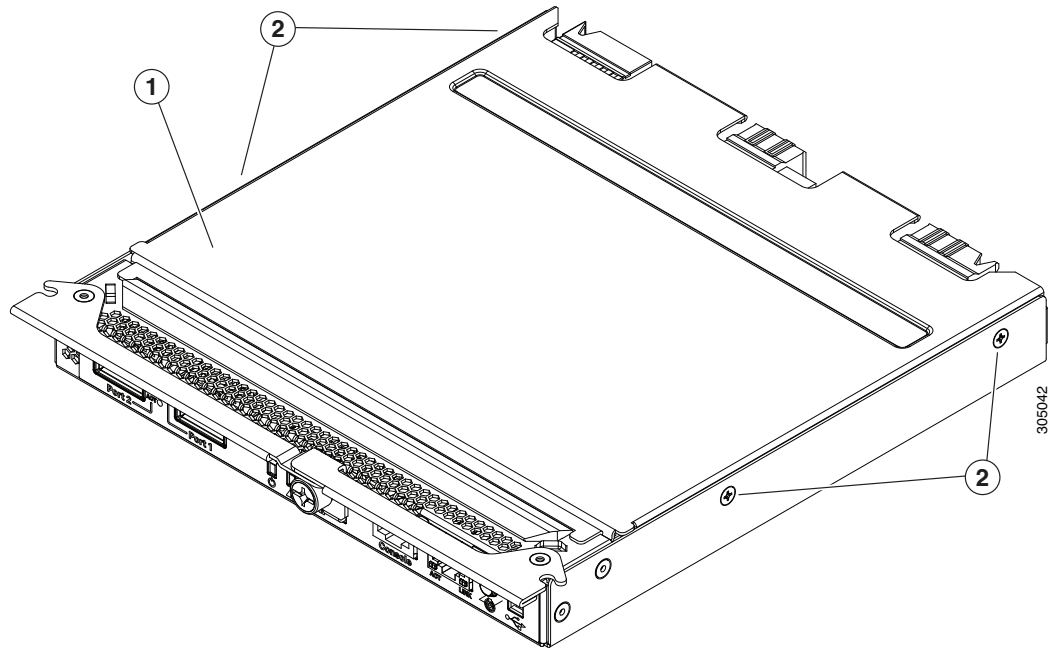
(注)

システムの背面から SIOC を取り外す場合に、システムをラックの外にスライドさせる必要はありません。

- ステップ 1** 交換する SIOC とペアになっているサーバノードの電源をオフにします (SIOC 1 はサーバノード 1 とペア、SIOC 2 はサーバノード 2 とペアになっています)。
- ステップ 2** システムから SIOC を取り外します。
- SIOC の取り付けネジを 1 本緩め、次に 2 つのヒンジ付きレバーを開き、バックプレーンコネクタから SIOC を平らにして取り外します。
 - システムから SIOC を引き抜き、静電気対策を施した作業台の上に置きます。
- ステップ 3** SIOC のカバーを取り外します。
- No.1 プラスドライバを使用して、カバーを固定している 4 本のネジを外します。図 3-5 を参照してください。
 - SIOC からカバーをまっすぐ持ち上げます。
- ステップ 4** SIOC のカバーを再度取り付けます。
- カバーを元の場所に取り付けます。
 - 4 本のネジを取り付けて、カバーを固定します。
- ステップ 5** システムに SIOC を再度取り付けます。
- 内部ミッドプレーンに突き当たるまで、SIOC をベイに押し込みます。
 - SIOC の 2 つのレバーを閉じ、SIOC コネクタとミッドプレーンを十分にかみ合わせます。
 - SIOC のレバーの蝶ネジを締めます。

ステップ 6 最初の手順で電源をオフにしたサーバ ノードの電源をオンにします。

図 3-5 SIOC カバーの取り外し



1	SIOC カバー	2	カバーの 4 本のネジ (SIOC の両側に 2 本ずつ)
---	----------	---	-------------------------------

システムコンポーネントの取り付けまたは交換



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な機能があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への電磁干渉 (EMI) の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の冷気の流れを適切な状態に保つことです。システムは、必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーを正しく取り付けられた状態で運用してください。
ステートメント 1029



注意

システムコンポーネントを扱う際は、静電気損傷を防ぐために、ESD ストラップを装着してください。



注意

このシステムの重量は、コンポーネントをフル搭載した状態で約 86 kg (190 ポンド) です。システムを持ち上げるときは、2 人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を 1 人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。システムを移動するときには、ハードドライブなどのコンポーネントを一時的に取り外すことを検討してください。

- ハードドライブまたはソリッドステートドライブの交換(3-15 ページ)
 - 内蔵ドライブのコンパートメントの HDD または SSD の交換(3-17 ページ)
 - オプションのドライブ拡張モジュールのハードドライブの交換(3-20 ページ)
 - 背面パネルベイの SAS/SATA ソリッドステートドライブの交換(3-22 ページ)
- ファンモジュールの交換(3-23 ページ)
- サーバノードの交換(3-25 ページ)
- ドライブ拡張モジュールの交換(3-25 ページ)
- システムの I/O コントローラ(SIOC)の交換(3-26 ページ)
- 電源モジュールの交換(3-30 ページ)
- サーバノード内の DIMM の交換(3-31 ページ)
- サーバノード内の CPU およびヒートシンクの交換(3-31 ページ)
- サーバノード内のストレージコントローラカードの交換(3-32 ページ)
- サーバノード内のソリッドステートドライブの交換(C3X60 M4 のみ)(3-32 ページ)
- サーバノード内の RTC バッテリーの交換(3-32 ページ)
- サーバノード内の内部 USB ドライブの交換(C3X60 M3 のみ)(3-32 ページ)
- サーバノード内でのトラステッドプラットフォームモジュール(TPM)の取り付け(3-32 ページ)
- I/O エクスパンダの交換(C3X60 M4 サーバノードのみ)(3-32 ページ)
- I/O エクスパンダ内の PCIe カードの交換(C3X60 M4 サーバノードのみ)(3-33 ページ)
- C3260 SIOC 内の RTC バッテリーの交換(3-33 ページ)
- サーバノードボードのサービスヘッダー(3-34 ページ)

ハードドライブまたはソリッドステートドライブの交換

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 内蔵ドライブのコンパートメントの HDD または SSD の交換(3-17 ページ)
- オプションのドライブ拡張モジュールのハードドライブの交換(3-20 ページ)
- 背面パネルベイの SAS/SATA ソリッドステートドライブの交換(3-22 ページ)

4K セクターフォーマットドライブの考慮事項

- 4K セクターフォーマットドライブは、レガシーモードではなく、UEFI モードで起動する必要があります。BIOS セットアップユーティリティの UEFI モードでの起動の設定(3-16 ページ)または Cisco IMC GUI の UEFI モードでの起動の設定(3-16 ページ)を参照してください。
- 4K セクターフォーマットと 512 バイトセクターフォーマットのドライブを、同じ RAID ボリュームの一部として構成しないでください。
- 4K セクタードライブでのサポート対象オペレーティングシステムは次のとおりです。Windows の場合: Win2012 および Win2012R2。Linux の場合: RHEL 6.5、6.6、6.7、7.0、7.2、SLES 11 SP3、および SLES 12。ESXi/VMware はサポートされません。
- 6 TB ドライブでは 4096 バイトセクターを使用します。VMware ESXi ではこの機能をサポートしていないため、6 TB ドライブと連動しません。

BIOS セットアップ ユーティリティの UEFI モードでの起動の設定

-
- ステップ 1** Web ブラウザとシステムの管理 IP アドレスを使用して、Cisco IMC GUI 管理インターフェイスにログインします。
 - ステップ 2** [Compute] を選択し、それから [Server 1] を選択します。
 - ステップ 3** [Launch KVM] をクリックして、サーバ ノードの仮想 KVM ウィンドウを開きます。
 - ステップ 4** [Launch KVM] ダイアログで、[Server 1] を選択して、[Launch] をクリックします。
 - ステップ 5** サーバ ノード 1 をリブートします。KVM ウィンドウで F2 を押すようにとのプロンプトが出されるのを待ちます。
 - ステップ 6** ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。
 - ステップ 7** [Boot Options] タブに移動します。
 - ステップ 8** [UEFI Boot Options] を [Enabled] に設定します。
 - ステップ 9** [Boot Option Priorities] で、OS インストール メディア (仮想 DVD など) を [Boot Option #1] と設定します。
 - ステップ 10** [Advanced] タブに移動します。
 - ステップ 11** [LOM and PCIe Slot Configuration] を選択します。
 - ステップ 12** [PCIe Slot ID: HBA Option ROM] を [UEFI Only] に設定します。
 - ステップ 13** **F10** を押して変更内容を保存し、BIOS セットアップ ユーティリティを終了します。サーバをリブートできます。
 - ステップ 14** サーバが再起動し、OS がインストールされたら、次のようにしてインストールを確認します。
 - a. ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS Setup ユーティリティに切り替えます。
 - b. [Boot Options] タブに移動します。
 - c. [Boot Option Priorities] で、インストールした OS が [Boot Option #1] としてリストされていることを確認します。
-

Cisco IMC GUI の UEFI モードでの起動の設定

-
- ステップ 1** Web ブラウザとシステムの管理 IP アドレスを使用して、Cisco IMC GUI 管理インターフェイスにログインします。
 - ステップ 2** [Compute] を選択し、それから [Server 1] を選択します。
 - ステップ 3** [BIOS] タブを選択します。
 - ステップ 4** [BIOS Properties] で、[Configured Boot Order] を [UEFI] に設定します。
 - ステップ 5** [Save Changes] をクリックします。
 - ステップ 6** [Configure Boot Order] をクリックします。
 - ステップ 7** [Advanced] タブを選択します。
 - ステップ 8** [Add Local HDD] をクリックします。
 - ステップ 9** [Add Local Disk] ダイアログで、4K セクター フォーマット ドライブの情報を入力します。名前を入力し、スロット **M** を指定します。
 - ステップ 10** [Save Changes] をクリックします。

- ステップ 11** [Add Virtual Media] をクリックします。
- ステップ 12** [Add Virtual Media] ダイアログで、OS インストール仮想メディアの名前を入力します。
- ステップ 13** [Save Changes] をクリックします。
- ステップ 14** [Close] をクリックします。
- ステップ 15** [Launch KVM] をクリックして、サーバ ノードの仮想 KVM ウィンドウを開きます。
- ステップ 16** [Launch KVM] ダイアログで、[Server 1] を選択して、[Launch] をクリックします。
- ステップ 17** 仮想メディアをアクティブにします。KVM ウィンドウの [Virtual Media] メニューをプルダウンし、[Activate Virtual Devices] を選択します。
- ステップ 18** サーバ ノードをリブートします。
- ステップ 19** ブート中に **F6** を押して、ブート デバイス メニューを開きます。
- ステップ 20** [UEFI: Cisco vKVM-Mapped vDVD] を選択し、**Enter** を押します。
- ステップ 21** OS のインストールを続行します。

OS がインストールされてシステムが再起動したら、その OS がブート オプションにリストされます。

内蔵ドライブのコンパートメントの HDD または SSD の交換

ここでは、次の内容について説明します。

- [内蔵ドライブの装着に関するガイドライン \(3-17 ページ\)](#)
- [故障している内蔵ドライブの特定 \(3-18 ページ\)](#)
- [内蔵ドライブの交換 \(3-19 ページ\)](#)

内蔵ドライブの装着に関するガイドライン

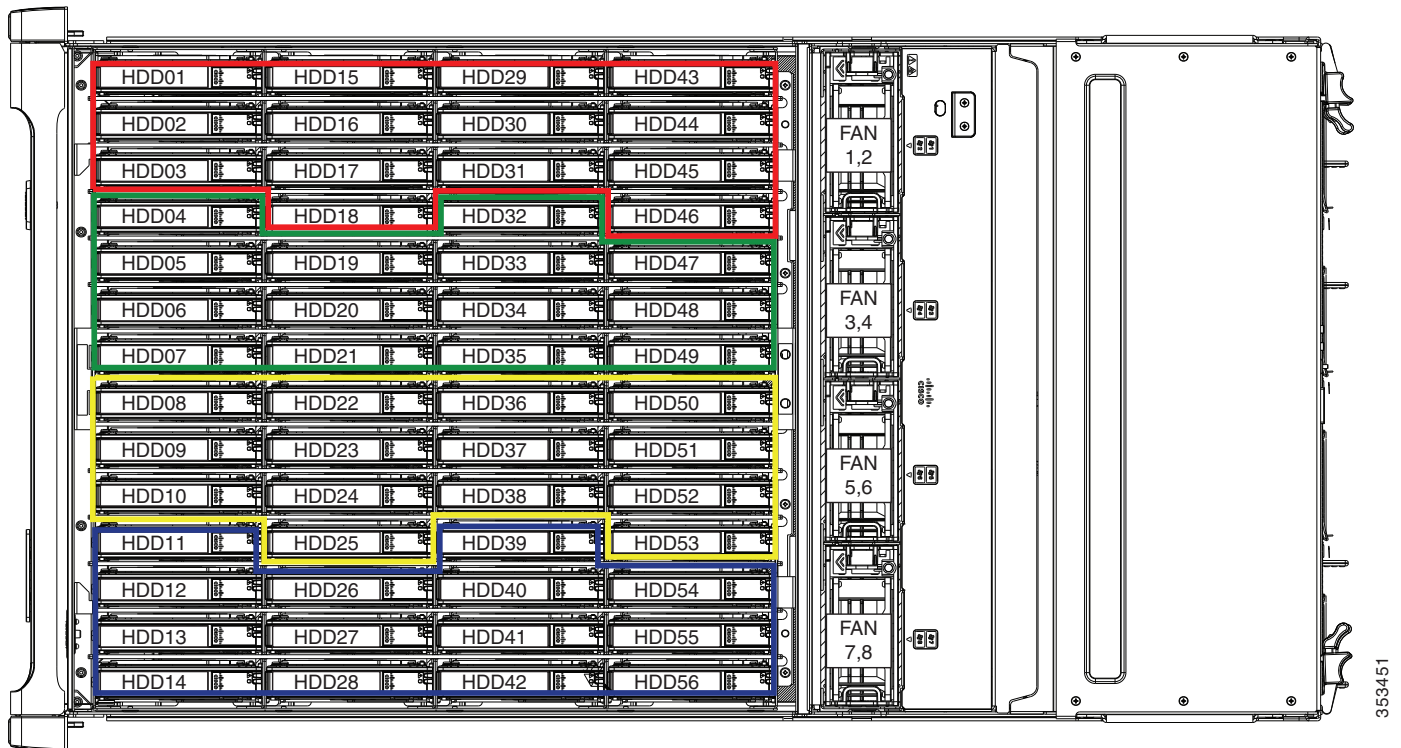
システムでは、主要シャーシ内に 56 の内蔵ドライブ ベイがあります。[図 3-6](#) に、内蔵ドライブ ベイの番号を示します。内蔵ドライブを装着するときは、次のガイドラインに従ってください。

- 小さい番号から大きい番号のベイの順に、HDD を装着します。1 ~ 14 列、次に 15 ~ 28 列、以後同様に装着します。
- 大きい番号から小さい番号のベイの順に、内部 SSD を装着します。ベイ 56、次にベイ 55、以後同様に装着します。

たとえば、36 台の HDD と 2 台の SSD を搭載したシステムでは、HDD をベイ 1 ~ 36 に装着し、SSD をベイ 56 と 55 に装着します。

- [図 3-6](#) に示す 4 種類の色分けされたボックスは、4 つの電源グループを表します。各グループにおいて、電力がドライブ ベイに分配されます。

図 3-6 内蔵ドライブ ベイの番号

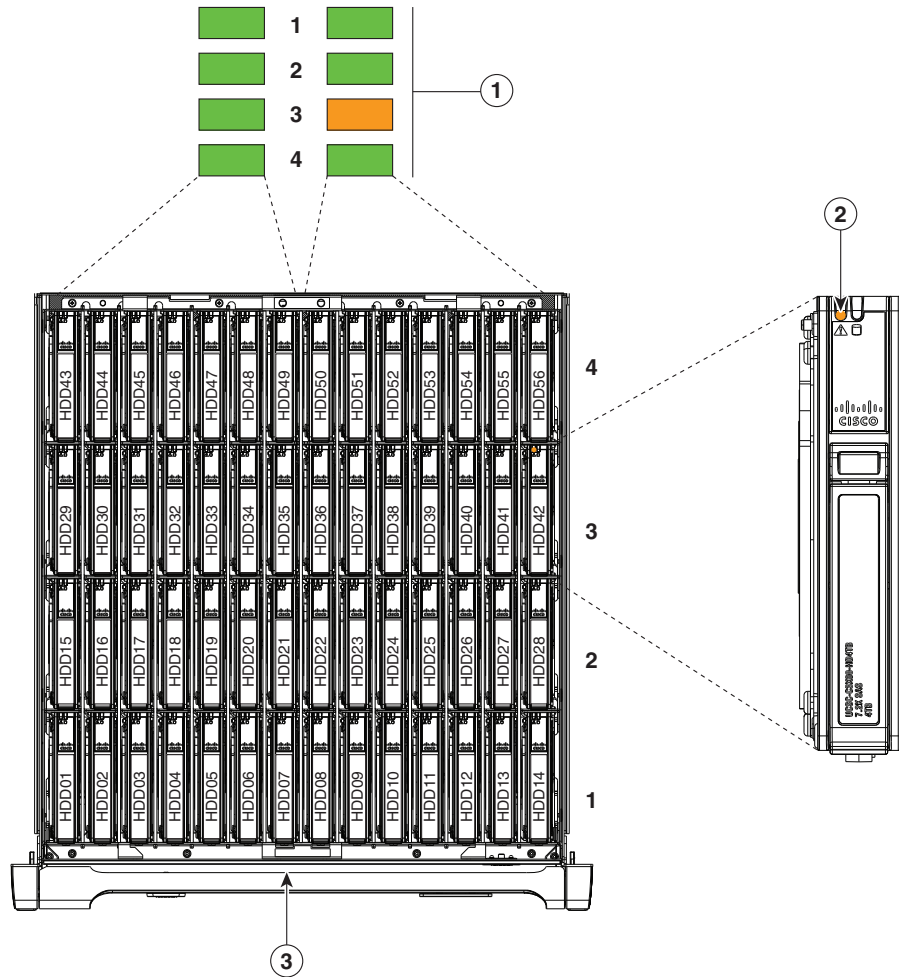


故障している内蔵ドライブの特定

右前面のハンドルに内蔵ドライブ障害 LED があります(図 3-1 を参照)。これらの LED を使用して、障害の発生しているドライブの位置を特定します。

- ステップ 1** 右前面のハンドルにある内蔵ドライブ障害 LED を確認します。
- 2 列の LED は内蔵ドライブのコンパートメントの両半分に対応します(上部カバーの左右どちらかの下)。
 - 4 列の LED は、ドライブ ベイ(各行の 14 ドライブ ベイ)の 4 つの水平行に対応します。
- 例については、図 3-7 を参照してください。この例では、3 列目のオレンジ色の LED が、障害の発生しているドライブが内蔵ドライブのコンパートメントの右半分にあることを示しています。
- ステップ 2** 右側面または左側面のカバーを開き、ドライブトレイにある障害 LED を確認します。オレンジに点灯した障害 LED は障害が発生したドライブを示します。

図 3-7 内蔵ドライブのステータス LED の例



353452

1	システムの右前面のハンドルにある 3 列の内蔵ドライブ障害 LED。右側の 3 列目に障害のあるドライブを示しています。	3	システム前面
2	ドライブ キャリアの障害 LED		

内蔵ドライブの交換



(注) SAS HDD および SSD はホットスワップ可能で、システムの電源を落とさずに交換できます。

ステップ 1 上部カバーが開くように、システムをラックの前方に引き出します。



注意 コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからシステムを取り出してください。

ステップ 2 障害の発生しているドライブを特定します(故障している内蔵ドライブの特定(3-18 ページ)を参照)

ステップ 3 内蔵ドライブのコンパートメントのカバーを開きます。

ステップ 4 障害の発生しているドライブを取り外します。

- a. ドライブ キャリアのリリース ボタンを押します。ドライブ レバーが現れます。
- b. ドライブ レバーを 90 度の位置まで持ち上げて一杯に開き、ベイからドライブをまっすぐ持ち上げます。
スペアドライブがキャリアにすでにインストールされているため、キャリアから古いドライブを取り外す必要はありません。

ステップ 5 次のようにして、新しいドライブを取り付けます。

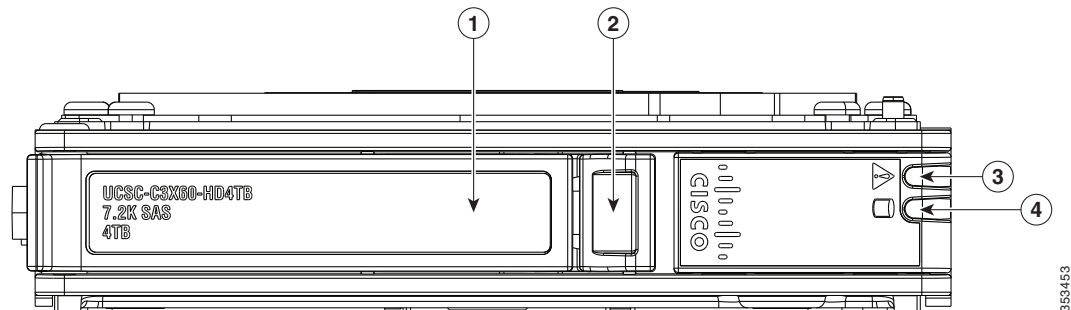


(注) ドライブの装着に関するガイドラインを確認します(内蔵ドライブの装着に関するガイドライン(3-17 ページ)を参照)。

- a. 空のベイに新しいドライブを合わせます。コネクタがボード上のコネクタと合う方向にドライブを向けます。
- b. ボードがコネクタに接触してドライブ レバーが閉じ始めるまで、ドライブを下げます。
- c. カチッと音がしてロックされるまで、ドライブ レバーをまっすぐ押し下げます。

ステップ 6 シャーシ カバーを閉じ、システムをラック内に押し戻します。

図 3-8 内蔵ドライブ キャリアの機能



1	ドライブ レバー	3	ドライブ障害 LED
2	解除ボタン	4	ドライブ アクティビティ LED

オプションのドライブ拡張モジュールのハードドライブの交換

ここでは、次の内容について説明します。

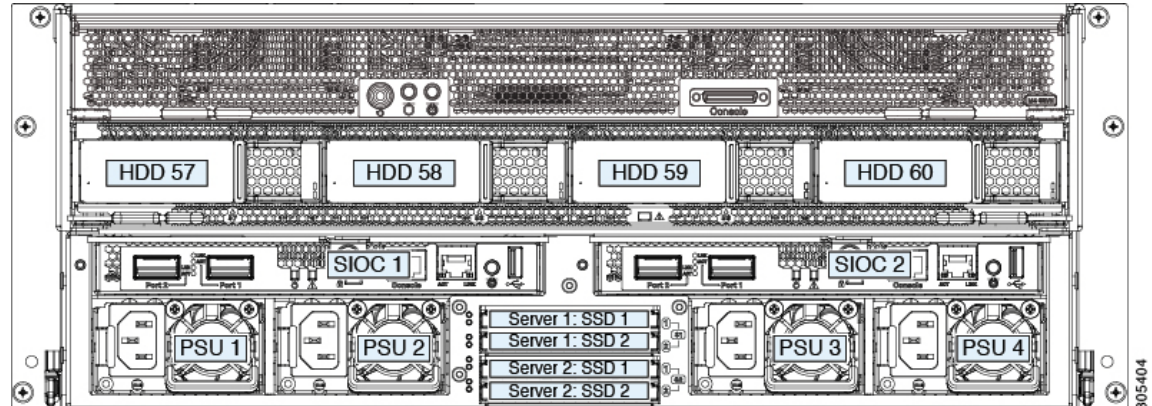
- [ドライブ拡張モジュールのドライブ装着に関するガイドライン\(3-20 ページ\)](#)
- [障害ドライブの拡張モジュールドライブの特定\(3-21 ページ\)](#)
- [ドライブ拡張モジュールのドライブの交換\(3-21 ページ\)](#)

ドライブ拡張モジュールのドライブ装着に関するガイドライン

オプションのドライブ拡張モジュールは、最大 4 つの 3.5 インチドライブを収容できます。ドライブ番号を [図 3-9](#) に示します。これらのドライブを装着する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 小さい番号から大きい番号のベイの順に、ドライブを装着します。

図 3-9 ドライブ拡張モジュールおよびソリッドステートドライブの番号



障害ドライブの拡張モジュールドライブの特定

各ドライブ キャリアには障害 LED が搭載されており、オレンジに点灯して障害の発生しているドライブを示します。

ドライブ拡張モジュールのドライブの交換



(注) SAS ドライブはホットスワップ可能で、システムの電源を落とさずに交換できます。

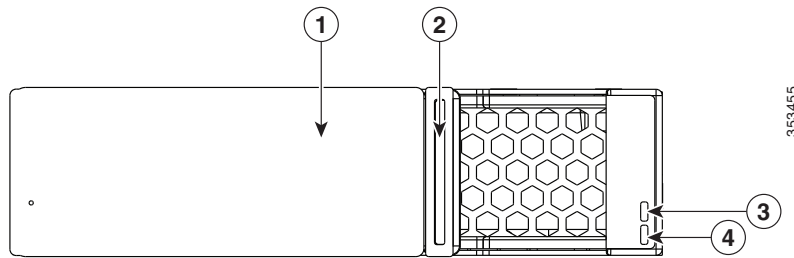
- ステップ 1** 障害の発生しているドライブを、[障害ドライブの拡張モジュールドライブの特定 \(3-21 ページ\)](#) に示すように特定します。
- ステップ 2** 障害の発生しているドライブを取り外します。
- ドライブ キャリアのリリース ボタンを押します。ドライブ レバーが現れます。
 - ドライブ レバーを一杯に開く位置まで持ち上げ、ベイからドライブをまっすぐ持ち上げます。スペアドライブがキャリアにすでにインストールされているため、キャリアから古いドライブを取り外す必要はありません。
- ステップ 3** 次のようにして、新しいドライブを取り付けます。



(注) ドライブの装着に関するガイドラインを確認します([ドライブ拡張モジュールのドライブ装着に関するガイドライン \(3-20 ページ\)](#) を参照)。

- 新しいドライブを空のベイに合わせ、ボードがコネクタに接触してドライブ レバーが閉じ始めるまで、ドライブを押し込みます。
- カチッと音がしてロックされるまで、ドライブ レバーをまっすぐ押し下げます。

図 3-10 ドライブ拡張モジュールのドライブ キャリアの機能



1	ドライブ レバー	3	ドライブ障害 LED
2	解除ボタン	4	ドライブ アクティビティ LED

背面パネル ベイの SAS/SATA ソリッド ステート ドライブの交換

ここでは、次の内容について説明します。

- 背面パネル SAS/SATA ソリッド ステート ドライブの装着ガイドライン(3-22 ページ)
- ソリッド ステート ドライブの交換(3-22 ページ)

背面パネル SAS/SATA ソリッド ステート ドライブの装着ガイドライン

背面パネルの SAS/SATA SSD 用に 4 つのベイがあります。ドライブ番号を 図 3-9 に示します。これらのドライブを装着する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- サーバ 1 の SSD1 と SSD2 は、サーバ ノード 1 で管理できます。管理アーキテクチャ(1-6 ページ)も参照してください。
- サーバ 2 の SSD1 と SSD1 は、サーバ ノード 2 で管理できます。
- 各サーバ制御ペア内で、小さい番号から大きい番号のベイの順に、ドライブを装着します。
- SSD のペアが存在しない場合は、空の 2 つの SSD ベイでブランク パネルを使用して、適切なエアフローを確保してください(図 3-11 を参照)。

障害の発生しているソリッド ステート ドライブの特定

各ソリッド ステート ドライブ ベイには障害 LED が搭載されており、オレンジに点灯して障害の発生しているドライブを示します(背面パネルの LED およびボタン(3-4 ページ) を参照)。

ソリッド ステート ドライブの交換



(注) SAS/SATA ソリッド ステート ドライブはホットスワップ可能で、システムの電源を落とさずに交換できます。

ステップ 1 障害の発生しているソリッド ステート ドライブを取り外します。

- リリース ラッチをつかんで、中央方向に向けてつまみます。
- ベイからソリッド ステート ドライブをベイからまっすぐ引き出します。

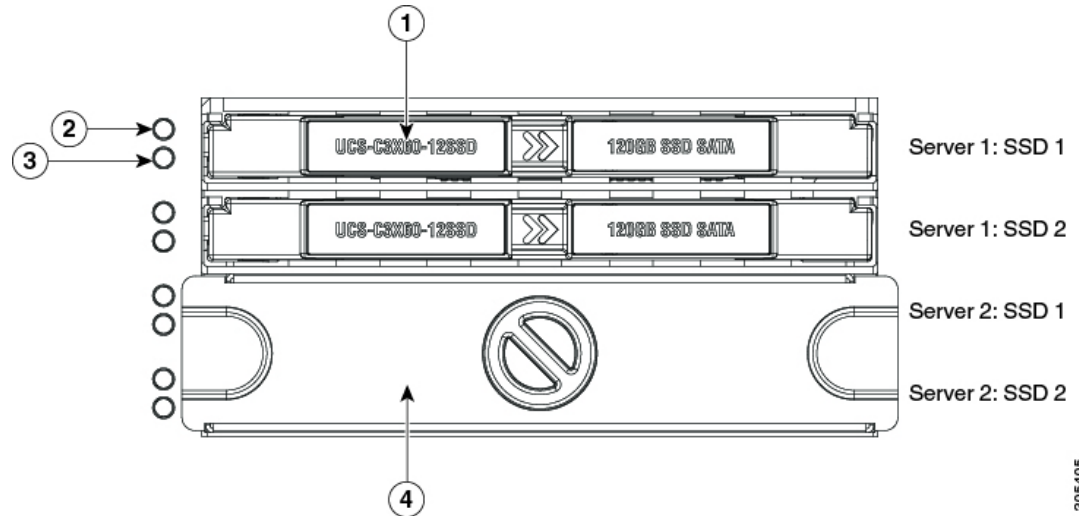
ステップ 2 新しいソリッド ステート ドライブを取り付けます。



(注) ドライブの装着に関するガイドラインを確認します(背面パネル SAS/SATA ソリッド ステート ドライブの装着ガイドライン(3-22 ページ)を参照)。

- a. 新しいドライブを(ラベルが上を向くようにして)空のベイに合わせ、ボード コネクタに接触するまで、ドライブを押し込みます。
- b. リリース ラッチをつかんで、中央方向に向けてつまみながら、ドライブをベイ内に完全に押し込みます。その後で、リリース ラッチを放します。

図 3-11 ソリッド ステート ドライブ ベイの機能



1	SSD リリース ラッチ	3	ソリッド ステート ドライブ アクティビティ LED(各ベイ)
2	ソリッド ステート ドライブ障害 LED (各ベイ)	4	下部のベイに取り付けるブランク パネル(ベイが使用中でない場合)

ファン モジュールの交換

各ファン モジュールには 2 つのファンが内蔵されています。ファン番号については、[図 3-12](#)を参照してください。

ファン モジュールはホットスワップが可能のため、ファン モジュールの交換時にシステムのシャットダウンまたは電源オフを行う必要はありません。ファン モジュールを取り外した状態で 1 分以上システムを稼働させないでください。



ヒント

各ファン モジュールには、ファン モジュールに障害が発生するとオレンジ色に点灯する障害 LED があります。

■ システムコンポーネントの取り付けまたは交換

ステップ 1 ファン コンパートメント カバーが開くように、システムをラックの前方に引き出します。

**注意**

コンポーネントへの接触や確認作業を安全に行えない場合は、ラックからシステムを取り出してください。

ステップ 2 ファン コンパートメントのカバーを開きます(主要シャーシの上部カバーを開く(3-11 ページ)を参照)。

ステップ 3 ファン モジュールを取り外します。

- a. ファンの上部にある2つのラッチをつかみ、中央方向につまみます。
- b. ベイからファン モジュールをまっすぐ持ち上げます。

ステップ 4 次のようにして、新しいファン モジュールを取り付けます。

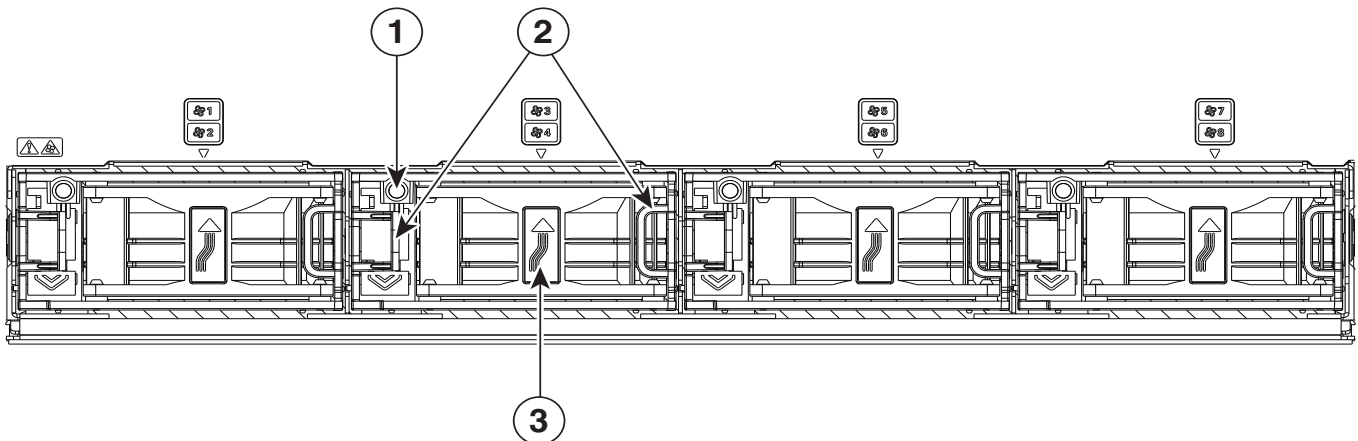
**(注)**

エアフローの方向を示すファン モジュールの矢印は、システムの背面を向く必要があります。

- a. ファン モジュール下部のコネクタがシャーシフロアのソケットに合うように、ファン モジュールの位置をベイに合わせます。
- b. ソケットに接触するまでファン モジュールを下げ、ラッチがロックされるまでしっかりと押し下げます。

ステップ 5 ファン コンパートメントのカバーを閉じ、システムをラック内に押し戻します。

図 3-12 ファン モジュール(上面図)



1	ファン モジュール障害 LED	3	システムの背面を向くエアフローの方向の矢印
2	ファン モジュールのリリースラッチ		

353457

サーバノードの交換

このシステムでは1台または2台のサーバノードをサポートできます。

- Cisco IMC リリース 2.0(13) より前:C3260 システムにサーバノードが1つしかない場合は、ベイ1に取り付けます。
- Cisco IMC リリース 2.0(13) 以降:C3260 システムにサーバノードが1つしかない場合は、いずれかのサーバベイに取り付けることができます。

サーバノードを交換するには(設定のエクスポートとインポートを含む)、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

ドライブ拡張モジュールの交換

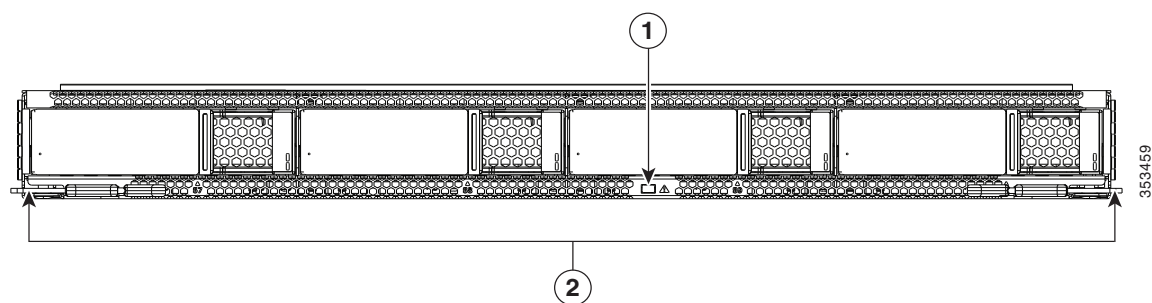
システムは、サーバベイ2のみで、1つのオプションドライブエクパンダモジュールをサポートできます。



ヒント

モジュールにはステータスLEDが1つ含まれています(場所については [図 3-13](#) を、LED状態の定義については [表 3-3\(3-7 ページ\)](#) を参照してください)。

図 3-13 ドライブ拡張モジュールの外観の特徴



1	ドライブ拡張モジュールのステータスLED	2	ドライブ拡張モジュールのエジェクトレバー(2)
----------	----------------------	----------	-------------------------



(注)

ドライブ拡張モジュールはホットスワップ可能です。つまり、システムの電源を落とさずに取り外すことができます。

ドライブ拡張モジュールにはシステムの背面からアクセスするため、ラックからシステムを引き出す必要はありません。

ステップ 1 システムからドライブ拡張モジュールを取り外します。

- 2つのモジュールエジェクトレバーをつかんでラッチをつまみ、レバーを放します([図 3-13](#)を参照)。
- 両方のレバーを同時に外側へ回し、ミッドプレーンのコネクタからモジュールを平らにして取り外します。
- システムからモジュールをまっすぐ引き出します。

■ システムコンポーネントの取り付けまたは交換

- ステップ 2** 古いモジュールからすべてのドライブを取り外し、新しいドライブ拡張モジュールに移動します。古いモジュールと同じ位置に各ドライブを取り付けます。
- ステップ 3** 新しいドライブ エクспанダー モジュールを取り付けます(サーバベイ 2 のみ)。
- 2つのイジェクトレバーを開き、新しいモジュールを空のベイの位置に合わせます。
 - ミッドプレーンコネクタとかみ合う位置まで、モジュールをベイに押し込みます。
 - 両方のイジェクトレバーが平らになり、ラッチがモジュールの背面にロックされるまで、両方のイジェクトレバーを中央に向けて回転させます。

システムの I/O コントローラ (SIOC) の交換

システムには、システムの I/O コントローラ (SIOC) を 2 つまで搭載できます。

管理アーキテクチャと、各 SIOC 内にあるシャーシ管理コントローラ (CMC) については、[管理アーキテクチャ \(1-6 ページ\)](#) を参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- [単一 SIOC システムの SIOC 交換 \(3-27 ページ\)](#)
- [デュアル SIOC システムの SIOC の交換 \(3-27 ページ\)](#)
- [SIOC SFP+ ポート速度の設定 \(3-28 ページ\)](#)
- [デュアル SIOC でありながらサーバノードが 1 つしか搭載されていないシステムの SIOC アダプタファームウェアの更新 \(3-29 ページ\)](#)

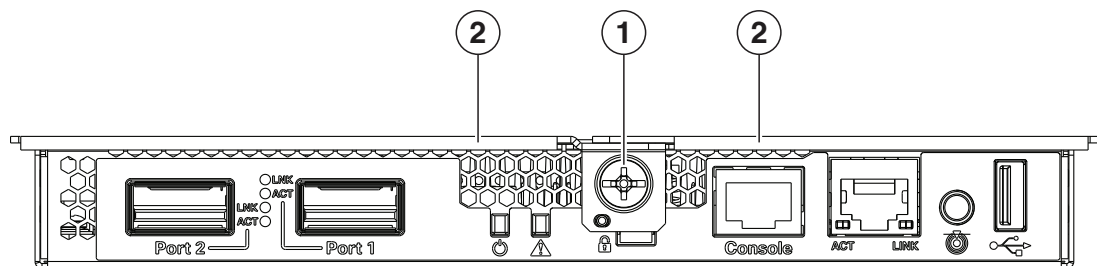


(注) あるシャーシから別のシャーシに Cisco C3260 SIOC を移動すると、SIOC の CMC 構成は互換性のないものとして扱われ、自動的に削除されます。CMC はアクティブな CMC 構成と同期されます。



(注) Cisco C3160 システムの SIOC を Cisco C3260 システムに取り付けることはできません。

図 3-14 SIOC の機械的特徴



- | | | | |
|---|---------|---|----------|
| 1 | レバーの蝶ネジ | 2 | イジェクトレバー |
|---|---------|---|----------|

単一 SIOC システムの SIOC 交換

システムの背面から SIOC を取り外す場合に、システムをラックの外にスライドさせる必要はありません。SIOC はシャーシの電源を切らずに交換することができます。

-
- ステップ 1** SIOC から CMC 構成をエクスポートします。
- ステップ 2** SIOC からアダプタ構成をエクスポートします。
- ステップ 3** SIOC とペアになっているサーバ ノードの電源をオフにします(SIOC 1 はベイ 1 のサーバ ノードとペアになっていて、SIOC 2 はベイ 2 のサーバ ノードとペアになっています)。
[個々のサーバ ノードのシャットダウン\(3-10 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 4** システムから SIOC を取り外します。
- SIOC の取り付けネジを 1 本緩め、次に 2 つのヒンジ付きイジェクト レバーを開き、ミッドプレーン コネクタから SIOC を平らにして取り外します。
 - システムから SIOC を引き出します。
- ステップ 5** 新しい SIOC を取り付けます。
- 内部バックプレーンに突き当たるまで、SIOC をベイに押し込みます。
 - SIOC の 2 つのイジェクト レバーを閉じ、そのコネクタとミッドプレーン コネクタを十分にかみ合わせます。
 - SIOC のイジェクト レバーの蝶ネジを締めます。
- ステップ 6** 新しい SIOC 内の CMC の起動が完了するまで待ちます。
- ステップ 7** 前にエクスポートした CMC 構成を、新しい SIOC の CMC にインポートします。
- ステップ 8** 前にエクスポートしたアダプタ構成を、新しい SIOC の CMC にインポートします。
- ステップ 9** 前に電源をオフにしたサーバ ノードの電源をオンにします。



(注) Cisco Card NIC モードを使用している場合、このモードでは SIOC のアップリンク インターフェイスを使用してシステムを管理するため、ネットワーク環境と一致するように、アップリンクのポート速度を 4x10 Gbps または 40 Gbps のいずれかに設定しなければならない場合があります。[SIOC SFP+ ポート速度の設定\(3-28 ページ\)](#)を参照してください。

デュアル SIOC システムの SIOC の交換

システムの背面から SIOC を取り外す場合に、システムをラックの外にスライドさせる必要はありません。SIOC はシャーシの電源を切らずに交換することができます。

-
- ステップ 1** SIOC 内の CMC を、スタンバイ CMC として設定します(まだこのように設定されていない場合)。
- ステップ 2** SIOC からアダプタ構成をエクスポートします。
- ステップ 3** 交換する SIOC とペアになっているサーバ ノードの電源をオフにします(SIOC 1 はサーバ ノード 1 とペア、SIOC 2 はサーバ ノード 2 とペアになっています)。
[個々のサーバ ノードのシャットダウン\(3-10 ページ\)](#)を参照してください。

■ システムコンポーネントの取り付けまたは交換

- ステップ 4** システムから SIOC を取り外します。
- SIOC の取り付けネジを 1 本緩め、次に 2 つのヒンジ付きイジェクト レバーを開き、ミッドプレーン コネクタから SIOC を平らにして取り外します。
 - システムから SIOC を引き出します。
- ステップ 5** 新しい SIOC を取り付けます。
- 内部バックプレーンに突き当たるまで、SIOC をベイに押し込みます。
 - SIOC の 2 つのイジェクト レバーを閉じ、SIOC コネクタとミッドプレーンを十分にかみ合わせます。
 - SIOC のイジェクト レバーの蝶ネジを締めます。
- ステップ 6** 新しい SIOC 内の CMC の起動が完了するまで待ちます。
- ステップ 7** 前に電源をオフにしたサーバ ノードの電源をオンにします。
- アクティブ CMC の構成は、新しく設置した SIOC 内のスタンバイ CMC と自動的に同期されます。



(注) Cisco Card NIC モードを使用している場合、このモードでは SIOC のアップリンク インターフェイスを使用してシステムを管理するため、ネットワーク環境と一致するように、アップリンクのポート速度を 4x10 Gbps または 40 Gbps のいずれかに設定しなければならない場合があります。[SIOC SFP+ ポート速度の設定\(3-28 ページ\)](#)を参照してください。

- ステップ 8** 前にエクスポートしたアダプタ構成を、新しい SIOC の CMC にインポートします。

SIOC SFP+ ポート速度の設定

任意:SIOC SFP+ ポートのポート速度を設定します。

- ステップ 1** キーボードとコンソールをシステムに接続するか、リモートからログインして仮想 KVM ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** システムをリブートし、Cisco IMC 設定ユーティリティの起動を促すメッセージが表示されたら **F8** を押します。
- ステップ 3** 最初のユーティリティ画面が表示されたら、**F1** を 2 回押して 3 番目のユーティリティ画面に進みます。この画面に、アダプタ ポート速度の設定が表示されます。
- ステップ 4** 目的のポート速度を設定します。[Adapter-1] は SIOC 1 を意味し、[Adapter-2] は SIOC 2 を意味します(存在する場合)。
- ステップ 5** **F10** を押して変更内容を保存し、ユーティリティを終了します。

デュアル SIOC でありながらサーバ ノードが1つしか搭載されていないシステムの SIOC アダプタ ファームウェアの更新

SIOC アダプタ ファームウェアの更新の際に推奨される方法は、SIOC に関連付けられているサーバ ノードで Cisco Host Upgrade Utility (HUU) を実行することです。ただし、システムにサーバ ノードが1つしかなく SIOC が2つある場合、この方法はサーバ ノードに関連付けられていない SIOC のファームウェアのアップグレードでは機能しません (SIOC 1 はベイ 1 のサーバ ノードに関連付けられており、SIOC 2 はベイ 2 のサーバ ノードに関連付けられています)。

この場合、関連付けられていない SIOC でアダプタ ファームウェアを手動でアップグレードする必要があります。

- [Cisco IMC GUI インターフェイスを使用した SIOC アダプタ ファームウェアの更新\(3-29 ページ\)](#)
- [Cisco IMC PMCLI インターフェイスを使用した SIOC アダプタ ファームウェアの更新\(3-30 ページ\)](#)

Cisco IMC GUI インターフェイスを使用した SIOC アダプタ ファームウェアの更新

- ステップ 1** SIOC アダプタ ファームウェアのアップデートをインストールします。
- a. [Admin] メニューの [Firmware Management] をクリックします。
 - b. [Component] 列で、[Adapter-SIOC1] または [Adapter-SIOC2] を選択します。
 - c. [Update] をクリックします。[Update Firmware] ダイアログボックスが開きます。
 - d. SIOC アダプタ用のファームウェアを参照して選択します。
 - e. [Install Firmware] をクリックして、ダウンロードとインストールを開始します。

- ステップ 2** ファームウェアをアクティブにします。
- a. [Component] 列で、[Adapter-SIOC1] または [Adapter-SIOC2] を選択します。
 - b. [Activate] をクリックします。



(注) アクティブにしたファームウェアバージョンを実行バージョンにするにはアダプタをリセットする必要があります。アダプタをリセットすると、ホストもリセットされます。

- ステップ 3** SIOC でアダプタをリセットします。
- a. [Navigation] ペインの [Networking] メニューをクリックします。
 - b. [Adapter Card] タブをクリックします。[General] タブが表示されます。
 - c. [Adapter-SIOC1] または [Adapter-SIOC2] を選択します。
 - d. [General] タブの [Actions] 領域で、[Reset] をクリックし、[Yes] をクリックして確定します。アダプタとホストがリセットされます。アクティブ化されたファームウェアが実行バージョンになります。

Cisco IMC PMCLI インターフェイスを使用した SIOC アダプタ ファームウェアの更新

ステップ 1 次のコマンドを使用して、アダプタ ファームウェアを更新してアクティブにします。

```
Server# scope chassis
Server/chassis# update-adapter-fw <protocol> <remote server IP address> <image file path>
<activate/no-activate> [SIOC slot number]
```

次に例を示します。

```
server1/chassis# update-adapter-fw tftp nnn.nnn.nnn.nnn /fw-image.bin activate 1
Adapter firmware update has started.Please check the status using "show adapter
detail".You have chosen to automatically activate the new firmware image.Please reset your
adapter after the update finishes.
```

ステップ 2 アダプタをリセットします。



(注) アクティブにしたファームウェアバージョンを実行バージョンにするにはアダプタをリセットする必要があります。アダプタをリセットすると、ホストもリセットされます。

```
server/chassis# adapter-reset <SIOC1 or SIOC2>
```

次に例を示します。

```
server/chassis# adapter-reset SIOC1
```

アダプタとホストがリセットされます。アクティブ化されたファームウェアが実行バージョンになります。

電源モジュールの交換

システムには、2 台または 4 台の電源装置を搭載することができます。4 台の電源装置を設置している場合、それらの電源装置は 2+2 冗長です。[電力仕様 \(A-2 ページ\)](#) も参照してください。

電源装置の交換または取り付けを行うには、次の手順に従います。



(注) システムに電源装置の冗長性を指定している (電源装置が 4 つある) 場合は、2+2 冗長であるため、最大 2 台の電源装置の交換時にシステムの電源をオフにする必要はありません。

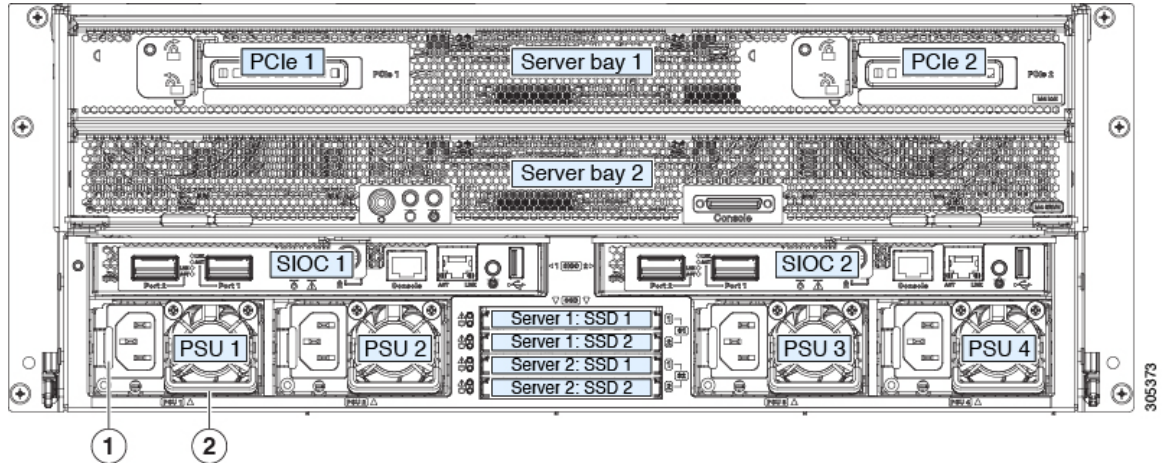
ステップ 1 交換する電源装置を取り外すか、空のベイからブランク パネルを取り外します ([図 3-15](#) を参照)。

- a. 次のいずれかの操作を実行します。
 - システムに電源装置が 2 台しかない場合は、「[C3260 システムのシャットダウンおよび電源オフ](#)」セクション ([3-9 ページ](#)) の説明に従ってシステムをシャットダウンし、電源をオフにします。
 - システムに 4 台の電源装置が搭載されている場合、システムの電源を切る必要はありません。
- b. 交換する電源装置から、電源コードを取り外します。
- c. 電源装置のハンドルをつかみながら、リリース レバーをハンドルに向けてひねります。
- d. 電源装置をベイから引き出します。

ステップ 2 次のようにして、新しい電源装置を取り付けます。

- a. 電源装置のハンドルをつかみ、空のベイに新しい電源装置を挿入します。
- b. リリースレバーがロックされるまで、電源装置をベイに押し込みます。
- c. 電源コードを新しい電源装置に接続します。
- d. システムの電源を切った場合は、システムの電源ボタンを 4 秒間押したままにして、主電源モードに戻します。

図 3-15 電源装置の取り外しおよび取り付け



1	電源装置リリースレバー	2	電源装置ハンドル
---	-------------	---	----------

サーバノード内の DIMM の交換

サーバノード内の DIMM を交換するには、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

サーバノード内の CPU およびヒートシンクの交換

サーバノード内の CPU を交換するには、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

サーバノード内のストレージコントローラカードの交換

サーバノード内のストレージコントローラカードを交換するには、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

サーバノード内のソリッドステートドライブの交換(C3X60 M4のみ)

C3X60 M4 サーバノード内のソリッドステートドライブ(SSD)を交換するには、C3X60 M4 のサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

サーバノード内のRTCバッテリーの交換

サーバノード内のRTCバッテリーを交換するには、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

サーバノード内の内部USBドライブの交換(C3X60 M3のみ)

C3X60 M3 サーバノード内の内部USBドライブの交換手順、およびUSBポートをイネーブルまたはディセーブルにする手順については、C3X60 M3 のサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

サーバノード内でのトラステッドプラットフォームモジュール(TPM)の取り付け

サーバノード内にTPMを取り付けるには、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

I/O エクспанダの交換(C3X60 M4 サーバノードのみ)

UCS C3X60 M4 サーバノードには、上部にオプションのI/Oエクспанダが接続されている場合があります。I/Oエクспанダを交換するには、Cisco UCS C3X60 M4 サーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

I/O エクспанダ内の PCIe カードの交換 (C3X60 M4 サーバ ノードのみ)

オプションの I/O エクспанダ内の PCIe カードを交換するには、Cisco UCS C3X60 M4 サーバ ノードのサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)

C3260 SIOC 内の RTC バッテリーの交換

リアルタイム クロック (RTC) バッテリーは、SIOC が電源から外されても設定を維持します。SIOC 内のバッテリーのタイプは CR1632 です。シスコでは、ほとんどの電器店から購入できる、業界標準の CR1632 バッテリーをサポートしています。

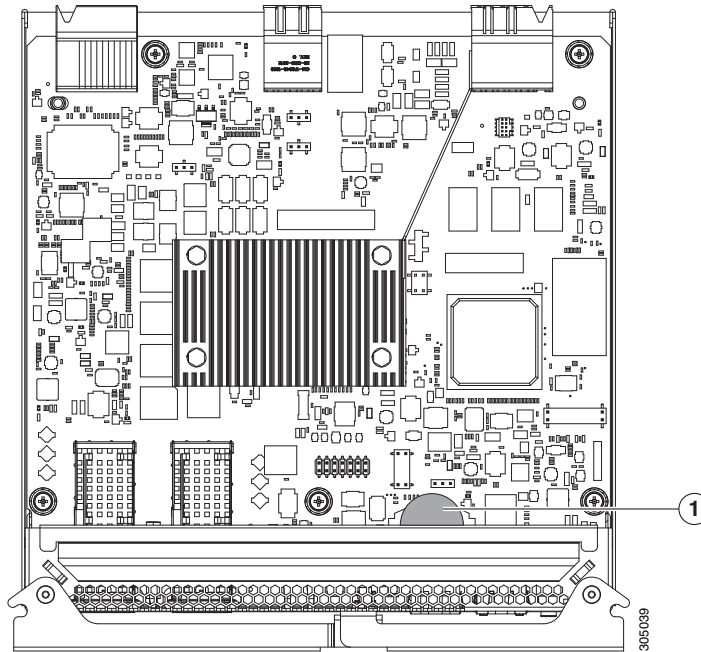


(注)

RTC バッテリーが取り外されるか、または完全に電力を失うと、SIOC の CMC に保存された設定は完全に失われます。新しいバッテリーを取り付けてから、CMC 設定を再設定する必要があります。

-
- ステップ 1** 取り外す SIOC とペアになっているサーバ ノードの電源をオフにします (SIOC 1 はサーバ ノード 1 とペア、SIOC 2 はサーバ ノード 2 とペアになっています)。個々のサーバ ノードのシャットダウン (3-10 ページ) を参照してください。
- ステップ 2** システムから SIOC を取り外します。
- SIOC の取り付けネジを 1 本緩め、次に 2 つのヒンジ付きイジェクト レバーを開き、ミッドプレーン コネクタから SIOC を平らにして取り外します。
 - システムから SIOC を引き出します。
- ステップ 3** システム I/O コントローラ (SIOC) のカバーの取り外し (3-13 ページ) の説明に従って、SIOC カバーを取り外します。
- ステップ 4** バッテリーをてこの原理でそっと外し、SIOC ボードのソケットから持ち上げます。
- ステップ 5** 新しいバッテリーをソケットに挿入し、水平になるまで押します。
- ステップ 6** SIOC のカバーを元に戻します。
- ステップ 7** SIOC をシステムに戻します。
- 内部ミッドプレーンに突き当たるまで、SIOC をベイに押し込みます。
 - SIOC の 2 つのレバーを閉じ、SIOC コネクタとバックプレーンを十分にかみ合わせます。
 - SIOC のレバーの蝶ネジを締めます。
- ステップ 8** 前に電源をオフにしたサーバ ノードの電源をオンにします。
- ステップ 9** この SIOC の CMC の設定を再設定します。

図 3-16 C3260 SIOC 内の RTC バッテリーの交換



- | | |
|---|-----------------------------------------|
| 1 | SIOC ボードのバッテリー ソケット、
CR1632 バッテリーを使用 |
|---|-----------------------------------------|

サーバノードボードのサービスヘッダー

サーバノードには、特定のサービス機能にジャンプを設定できるヘッダーが含まれます。

サービスヘッダーに関する情報については、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)



システムの仕様

この付録では、Cisco UCS C3260 ストレージ サーバの技術仕様を示します。この付録の内容は次のとおりです。

- システムの物理仕様(A-1 ページ)
- システムの環境仕様(A-1 ページ)
- 電力仕様(A-2 ページ)

システムの物理仕様

表 A-1 に、システムの物理仕様を示します。

表 A-1 物理的仕様

説明	仕様
高さ	174 mm (6.88 インチ)
幅	444 mm (17.46 インチ)
長さ	813 mm (32.00 インチ)
重量(最大設定)	88 kg (195 ポンド)

システムの環境仕様

表 A-2 に、システムの環境仕様を記載します。

表 A-2 環境仕様

説明	仕様
動作時温度	5 °C ~ 35 °C (41 °F ~ 95 °F)
非動作時温度	- 40 °C ~ 65 °C (- 40 °F ~ 149 °F)
湿度、動作時	10 ~ 90 % (結露しないこと)
湿度、非動作時	5 ~ 93 % (結露しないこと)
動作時高度 305 m ごとに 1 °C 低下	0 ~ 3048 m (0 ~ 10,000 フィート)

表 A-2 環境仕様(続き)

説明	仕様
高度、非動作時	0 ~ 12,192 m (0 ~ 40,000 フィート)
音響ノイズ、動作時	LWAd 5.4 Bel LpAm 38 dBA

電力仕様

表 A-3 に、各 1050 W 電源装置の仕様を示します (Cisco 部品番号 UCSC-C3X60-PSU)。

表 A-3 1050 W 電源装置の仕様

説明	仕様
AC 入力電圧	公称範囲: 100 ~ 120 VAC、200 ~ 240 VAC (範囲: 90 ~ 132 VAC、180 ~ 264 VAC)
AC 入力周波数	公称範囲: 50 ~ 60 Hz (範囲: 47 ~ 63 Hz)
最大 AC 入力電流	100 VAC で 12.5 A 208 VAC で 6 A
最大入力電圧	1250 VA @ 100 VAC
PSU あたりの最大出力電力	800 W @ 100 ~ 120 VAC 1050 W @ 200 ~ 240 VAC
最大突入電流	15 A (サブサイクル期間)
最大保留時間	12 ms @ 770 W
電源装置の出力電圧	12 VDC
電源装置のスタンバイ電圧	12 VDC
効率評価	Climate Savers Platinum Efficiency (80Plus Platinum 認証済み)
フォーム ファクタ	RSP2
入力コネクタ	IEC320 C14

次の URL にある Cisco UCS Power Calculator を使用すると、ご使用のシステム構成の電源に関する詳細情報を取得できます。

<http://ucspowercalc.cisco.com>



電源コードの仕様

この付録では、サポート対象の電源コードの仕様について説明します。

サポートされる電源コードおよびプラグ

各電源装置には個別の電源コードがあります。サーバとの接続には、標準の電源コードまたはジャンパ電源コードを使用できます。ラック用のジャンパ電源コードは、必要に応じて標準の電源コードの代わりに使用できます。



(注) 使用できるのは、サーバに付属している認定済みの電源コードまたはジャンパ電源コードだけです。

表 B-1 に、サーバ電源装置の電源コードを示します。

表 B-1 サポート対象のサーバ用電源コード

説明	長さ	
	フィート	メートル
CAB-250V-10A-BR 電源コード、250 VAC 10 A、ブラジル	8.2	2.5
CAB-250V-10A-CN 電源コード、250 VAC 10 A、中華人民共和国	8.2	2.5
CAB-9K10A-AU N5000 電源コード、250 VAC 10 A、オーストラリア	8.2	2.5
CAB-9K10A-EU N5000 電源コード、250 VAC 10 A、ヨーロッパ	8.2	2.5
CAB-9K10A-IT N5000 電源コード、250 VAC 10 A、イタリア	8.2	2.5
CAB-9K10A-SW N5000 電源コード、250 VAC 10 A、スイス	8.2	2.5

表 B-1 サポート対象のサーバ用電源コード(続き)

説明	長さ	
	フィート	メートル
CAB-9K10A-TWN N5000 電源コード、125 VAC 15A、台湾	8.2	2.5
CAB-9K10A-UK N5000 電源コード、250 VAC 10 A、英国	8.2	2.5
CAB-9K12A-NA N5000 電源コード、125 VAC、15 A、NEMA 5-15 プラグ、北米	8.2	2.5
CAB-AC-L620-C13 電源コード、NEMA L6-20-C13 コネクタ	6.6	2.0
CAB-C13-C14-2M キャビネット ジャンパ電源コード、250 VAC 10 A、C13-C14 コネクタ	6.6	2.0
CAB-C13-C14-AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 VAC 10 A、C13-C14 コネクタ、埋め込み型レセプタクル	9.8	3.0
CAB-C13-CBN キャビネット ジャンパ電源コード、250 VAC 10 A、C13-C14 コネクタ	2.2	0.68
CAB-C19-C20-3M-JP 電源コード、C19-C20 コネクタ、日本 PSE マーク	9.8	3.0
CAB-JPN-3PIN 電源コード、90-125 VAC、12 A、NEMA 5-15、日本	7.9	2.4
CAB-N5K6A-NA N5000 電源コード、250 VAC 6 A、北米	8.2	2.5
CAB-250V-10A-AR N5000 電源コード、250 VAC 10 A、アルゼンチン	8.2	2.5
CAB-250V-10A-CN N5000 電源コード、250 VAC 10 A、中国	8.2	2.5
CAB-250V-10A-ID N5000 電源コード、250 VAC 10A、インド	8.2	2.5
CAB-250V-10A-IS N5000 電源コード、250 VAC 10 A、イスラエル	8.2	2.5



ストレージコントローラに関する考慮事項

サーバノードでサポートされるストレージコントローラについては、ご使用のサーバノードのサービスノートを参照してください。

- [Cisco UCS C3X60 M3 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)
- [Cisco UCS C3X60 M4 Server Node For Cisco UCS C3260 System Service Note](#)



Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法

Cisco UCS Manager の統合には、Cisco UCS Manager 3.1(2) 以降が必要です。M3 または M4 サーバノードが搭載されたシステムを統合できますが、システムが Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェアを使用している必要があります。

Cisco UCS の統合手順は、次の場所にある GUI および CLI の統合ガイドに記載されています。

[Cisco UCS C3260 サーバと UCS Manager との統合に関するガイド](#)

ご使用の Cisco UCS Manager バージョン用のガイドを参照してください。



C3X60 M4 サーバノードを搭載した Cisco UCS C3260 システムへのアップグレード

- [Cisco UCS C3160 システムと C3260 システムの違い \(E-1 ページ\)](#)
- [M3 サーバノードが 1 つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが 1 つ搭載された C3260 へのアップグレード \(E-2 ページ\)](#)
- [M3 サーバノードが 2 つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが 2 つ搭載された C3260 へのアップグレード \(E-6 ページ\)](#)
- [M3 サーバノード 1 つが搭載された C3160 から M4 サーバノード 1 つ搭載された C3260 への移行 \(E-10 ページ\)](#)
- [M4 サーバノードが搭載された C3260 システムへの 2 番目のサーバノードまたは SIOC の取り付け \(E-13 ページ\)](#)



(注) C3260 から C3160 への移行はサポートされていません。C3160 を C3260 に移行した後に、再び C3160 に移行することはできません。

Cisco UCS C3160 システムと C3260 システムの違い

[表 E-1](#) に、Cisco UCS C3160 システムと Cisco UCS 3260 システムの違いを記載します。

■ M3 サーバノードが1つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが1つ搭載された C3260 へのアップグレード

表 E-1 Cisco UCS C3160 システムと Cisco UCS C3260 システムの違い

システム	Cisco IMC ファームウェアの最小要件	サポートされる SIOC	サポートされるサーバノードの数	サポートされる背面パネル SSD ドライブ	サポートされる I/O エクスパンダ モジュール	右前面のハンドルのラベル	UCSM 管理対象またはスタンドアロン	UCS Manager の最小要件
C3160	2.0(3)	UCSC-C3160-SIOC アダプタカードを使用する場合: VIC 1227 または VIC 1227-T	M3 サーバ ノード X 1 (インテル Xeon v2 ベース)	2	No	C3160	スタンドアロンのみ	該当なし
M3 サーバノードが搭載された C3260	2.0(7)	UCSC-C3260-SIOC 統合 VIC 1300 シリーズのチップ	M3 サーバ ノード X 1 または 2 (インテル Xeon v2 ベース)	4	No	C3260	スタンドアロンまたは UCSM モード ¹	3.1(2)
M4 サーバノードが搭載された C3260	2.0(13)	UCSC-C3260-SIOC 統合 VIC 1300 シリーズのチップ	M4 サーバ ノード X 1 または 2 (インテル Xeon v4 ベース)	4	Yes	C3260	スタンドアロンまたは UCSM モード	3.1(2)

1. UCSM モードには、Cisco IMC 2.0.13 以降および UCS Manager 3.1(2) 以降が必要です。

M3 サーバノードが1つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが1つ搭載された C3260 へのアップグレード

この手順では、C3X60 M3 サーバノードを1つ使用している Cisco UCS C3260 システムを、C3X60 M4 サーバノードを1つ使用する Cisco UCS C3260 システムにアップグレードします。

このアップグレードに必要な品目

ハードウェア

- M3 サーバノード 1つと SIOC を1つ搭載した Cisco UCS C3260 システム。アップグレードを開始する前に、すべてのシャーシとサーバノード コンポーネントが Cisco IMC 2.0(7) または 2.0(9) ファームウェアを実行している必要があります。
- Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェア (工場出荷時のデフォルト) を実行している新しい M4 サーバノード。

Software

- DHCP サーバで設定されたか、スタティック IP アドレスとして手動で入力した、最大 5 個の IP アドレス。詳細については、「[システム IP アドレス \(2-10 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco IMC 2.0(7) または 2.0(9) ファームウェアの最新の Host Upgrade Utility パッケージ。これを使用して、M3 ノードが搭載された Cisco C3260 システム全体を前提条件のファームウェアに更新します。

- Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェアの Host Upgrade Utility パッケージ。これを使用して、システムを M4 サーバノード要件にアップグレードします。

このユーティリティのダウンロード手順および使用方法については、[HUU ガイド](#)で、ご使用のリリースのガイドに記載の手順を参照してください。

アップグレードの考慮事項

以下の点に注意してください。

- アップグレード後に、個々のサーバノードにハードドライブをマップするためのドライブゾーン分割を手動で定義する必要があります。
- アップグレード後に、ブート SSD によってオペレーティングシステムが失われる可能性があります。この例では、オペレーティングシステムをブート SSD に再インストールします。

アップグレード手順

手順の概要

1. M3 サーバノードが搭載された C3260 システム全体が 2.0(7) または 2.0(9) を実行していることを確認します。
2. M3 サーバノードが搭載された C3260 システム全体を 2.0(13) にアップグレードします。
3. すべての電源コードを抜き、システムから電源を取り外します。
4. M3 サーバノードを M4 サーバノードと交換します。
5. ケーブルと電源コードをつなぎ直します。
6. システムを起動させ、CMC と BMC を工場出荷時のデフォルトに設定します。
7. IP アドレスとネットワークの設定を行います。
8. ハードドライブのドライブゾーン分割を実施します。

M3 サーバノードが搭載された C3260 システムの M4 サーバノードが搭載された C3260 へのアップグレード



注意

M4 サーバノードにアップグレードする前に、システムのファームウェアを必要な最小レベルにアップグレードする必要があります。古いバージョンのファームウェアは新しい CPU を認識できないため、サーバがブート不可能になります。

- ステップ 1** アップグレードを開始する前に、M3 サーバノードが搭載された Cisco C3260 システム全体が Cisco IMC 2.0(7) または 2.0(9) ファームウェアを実行していることを確認します。
- システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 2.0(7) または 2.0(9) の C3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、[HUU ガイド](#)に用意されている、リリース 2.0(7) または 2.0(9) の Host Upgrade Utility ユーザガイドを参照してください。
- ステップ 2** 2.0(13) 用の C3260 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。

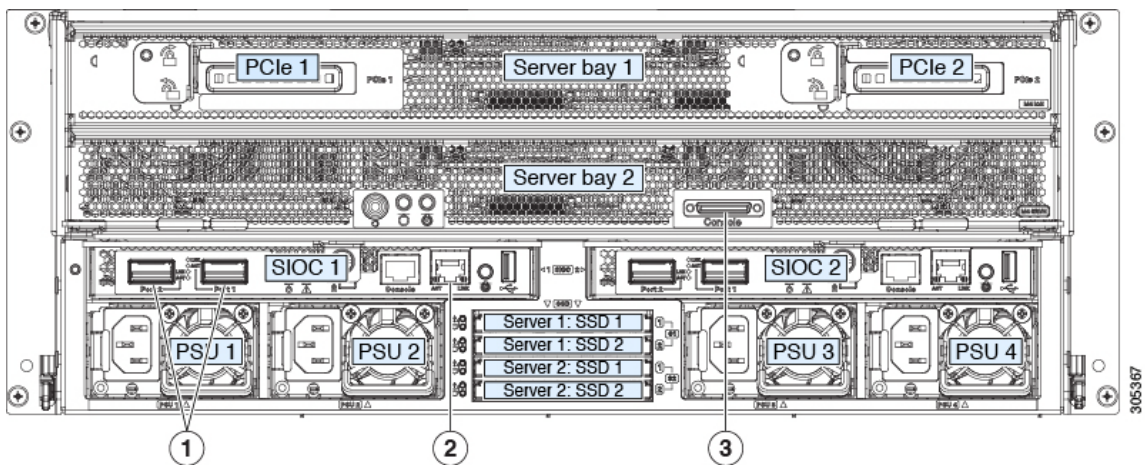
■ M3サーバノードが1つ搭載された C3260 から M4サーバノードが1つ搭載された C3260 へのアップグレード



(注) C3160 ダウンロード ページからではなく、C3260 ダウンロード ページからの 2.0(13) HUU を使用してください。

- ステップ 3** すべてのコンポーネントが Cisco IMC 2.0(13) にアップグレードされていることを確認します。CMC、BMC、BIOS、SAS エクспанダ、および SIOC アダプタのファームウェア バージョンを確認します。
- ステップ 4** シャット ダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 5** 既存の M3 サーバ ノードを取り外し、いずれかのサーバ ベイで新しい M4 サーバ ノードと交換します。
- M4サーバノードの上部に I/O エクспанダが取り付けられている場合は、それらをサーバ ベイ 2 にサーバ ノードとともに取り付けます。
- 手順については、[サーバ ノードの交換\(3-25 ページ\)](#)を参照してください。
- ステップ 6** システムに SIOC が 1 つしかない場合は、それが先ほど取り付け付けた M4 サーバ ノードと通信するための正しい SIOC ベイに配置されていることを確認します。
- 単一のサーバ ノードがサーバ ベイ 1 (図 E-1 を参照) に配置されている場合、SIOC は SIOC ベイ 1 に設置する必要があります。
 - 単一のサーバ ノードがサーバ ベイ 2 に配置されている場合、SIOC は SIOC ベイ 2 に設置する必要があります。
- ステップ 7** システムに背面パネル SSD がある場合は、それが先ほど取り付け付けた M4 サーバ ノードと通信するための正しい SSD ベイに配置されていることを確認します。
- 単一のサーバ ノードがサーバ ベイ 1 (図 E-1 を参照) に配置されている場合は、サーバ 1 ベイの SSD1 および SSD2 のみが使用できます。
 - 単一のサーバ ノードがサーバ ベイ 2 に配置されている場合は、サーバ 2 ベイの SSD1 および SSD2 のみが使用できます。

図 E-1 セットアップ用の背面パネルコネクタ



1	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	3	各サーバ ノードの KVM コンソール コネクタ
2	10/100/1000 専用管理ポート		

- ステップ 8** システムに電源ケーブルを再度つなぎます。システムが起動するまで約 5 分間待ちます。
- ステップ 9** システムの背面にあるサーバノードの KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します (図 E-2 を参照)。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。
- ステップ 10** Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。
- 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、システムを起動します。F8 を押すようにとのプロンプト画面が表示されるのを待ちます。
 - ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。
このユーティリティには 3 つのウィンドウがあり、F1 または F2 を押すことで切り替えることができます。
- ステップ 11** ユーティリティによりデフォルトのユーザパスワードを変更するよう求められます。続行する前に、デフォルトのユーザパスワードを設定します。
- ステップ 12** すべての SIOC の CMC と、すべてのサーバノードの BMC を工場出荷時のデフォルトに設定します。
- [Factory Default] チェックボックスには 2 つのオプションがありますが、この 2 つのリセットは次の順序で実行する必要があります。
- [Chassis Controller Configuration] を選択し、変更を保存します。SIOC 内のどちらの CMC も工場出荷時のデフォルトに設定されます。
 - [Server Controller Configuration] を選択し、変更を保存します。サーバノードはその工場出荷時のデフォルト状態に戻され、サーバ/ホストがリブートします。



(注) デフォルトへのリセット後に BMC がリブートします。次の手順でサーバがリブートしたら、F8 を押してプロンプトが表示されるのを確認します。

- ステップ 13** プロンプトが表示されたら、**F8** を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを再度起動します。
- ステップ 14** プロンプトが表示されたら、新しい Cisco IMC のパスワードを設定します。
- ステップ 15** システムの管理、CMC、および BMC IP アドレスを設定します。



(注) DHCP サーバを使用しており、SFP+ ケーブルが SIOC に接続されていれば、管理 IP アドレスとネットワーク設定はすでに入力されています。DHCP をディセーブルにする場合は、ユーザ固有のスタティック管理 IP アドレスとネットワーク設定を設定する必要があります。

- ステップ 16** スタティック IP を設定する (DHCP がディセーブルである) 場合にのみ実行する手順: CMC および BMC の内部 IP アドレスを、[CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定 \(2-15 ページ\)](#) の説明に従って、Cisco IMC インターフェイスを使用して設定します。
- ステップ 17** Cisco IMC (GUI または CLI) を使用して、個々のサーバノードにハードドライブをマップするハードドライブのゾーン分割を定義します。
- Cisco IMC GUI を使用:
 - いずれかの SIOC で CMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理ソフトウェアにログインします。
 - 次のタブに移動します。
[Chassis] > [Inventory] > [Dynamic Storage] > [Zoning]
 - ドライブを選択し、サーバ 1 またはサーバ 2 に割り当てます。

■ M3 サーバノードが2つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが2つ搭載された C3260 へのアップグレード

- Cisco IMC CLI を使用して、ご自身の選択内容に合わせて次のコマンドを入力します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis# scope dynamic-storage
Server /chassis/dynamic-storage# assign-drive <server ID> <drive-slotid-list>
```

次に例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # scope dynamic-storage
svbu-huu-sanity-col2-1-vcmc /chassis/dynamic-storage # assign-drive server2 27
Are you sure you want to assign drives 27 to server2
Enter 'yes' to confirm -> yes
assign-drive operation successful.
```

- ステップ 18** システムに 2 番目のサーバ ノードおよび SIOC を追加する場合は、M4 サーバ ノードが搭載された C3260 システムへの 2 番目のサーバ ノードまたは SIOC の取り付け (E-13 ページ) に進みます。

M3 サーバノードが2つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが2つ搭載された C3260 へのアップグレード

この手順では、C3X60 M3 サーバ ノード 2 つ使用している Cisco UCS C3260 システムを、C3X60 M4 サーバ ノードを 2 つ使用する Cisco UCS C3260 システムにアップグレードします。

このアップグレードに必要な品目

ハードウェア

- M3 サーバ ノードが 2 つ搭載された Cisco UCS C3260 システムアップグレードを開始する前に、すべてのシャーシとサーバ ノード コンポーネントが Cisco IMC 2.0(7) または 2.0(9) ファームウェアを実行している必要があります。
- Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェア (工場出荷時のデフォルト) を実行している新しい M4 サーバ ノード。

Software

- DHCP サーバで設定されたか、スタティック IP アドレスとして手動で入力した、最大 5 個の IP アドレス。詳細については、「[システム IP アドレス \(2-10 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco IMC 2.0(7) または 2.0(9) ファームウェアの最新の Host Upgrade Utility パッケージ。これを使用して、M3 ノードが搭載された Cisco C3260 システム全体を前提条件のファームウェアに更新します。
- Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェアの Host Upgrade Utility パッケージ。これを使用して、システムを M4 サーバ ノード要件にアップグレードします。

このユーティリティのダウンロード手順および使用方法については、[HUU ガイド](#)で、ご使用のリリースのガイドに記載の手順を参照してください。

アップグレードの考慮事項

以下の点に注意してください。

- アップグレード後に、個々のサーバノードにハードドライブをマップするためのドライブゾーン分割を手動で定義する必要があります。
- アップグレード後に、ブート SSD によってオペレーティングシステムが失われる可能性があります。この例では、オペレーティングシステムをブート SSD に再インストールします。

アップグレード手順

手順の概要

1. M3 サーバノードが搭載された C3260 システム全体が 2.0(7) または 2.0(9) を実行していることを確認します。
2. M3 サーバノードが搭載された C3260 システム全体を 2.0(13) にアップグレードします。
3. すべての電源コードを抜き、システムから電源を取り外します。
4. M3 サーバノードを M4 サーバノードと交換します。
5. ケーブルと電源コードをつなぎ直します。
6. システムを起動させ、CMC と BMC を工場出荷時のデフォルトに設定します。
7. IP アドレスとネットワークの設定を行います。
8. ハードドライブのドライブゾーン分割を実施します。

M3 サーバノードが2つ搭載された C3260 システムの M4 サーバノードが2つ搭載された C3260 へのアップグレード



注意

M4 サーバノードにアップグレードする前に、システムのファームウェアを必要な最小レベルにアップグレードする必要があります。古いバージョンのファームウェアは新しい CPU を認識できないため、サーバがブート不可能になります。

- ステップ 1** アップグレードを開始する前に、M3 サーバノードが搭載された Cisco C3260 システム全体が Cisco IMC 2.0(7) または 2.0(9) ファームウェアを実行していることを確認します。
- システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 2.0(7) または 2.0(9) の C3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、[HUU ガイド](#)に用意されている、リリース 2.0(7) または 2.0(9) の Host Upgrade Utility ユーザガイドを参照してください。
- ステップ 2** 2.0(13) 用の C3260 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。
- SIOC 1 アダプタのファームウェアをアップグレードするにはサーバノード 1 の HUU を起動します。SIOC 2 のファームウェアをアップグレードするには、サーバノード 2 の HUU を起動します。

■ M3 サーバノードが2つ搭載された C3260 から M4 サーバノードが2つ搭載された C3260 へのアップグレード



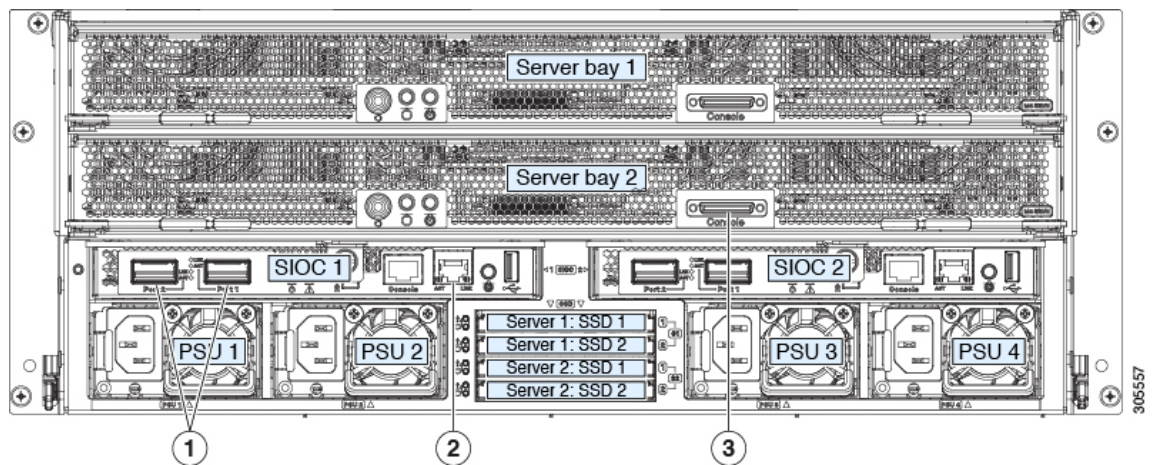
(注) SIOC アダプタのファームウェアをアップグレードするには、その SIOC を制御するサーバノードの HUU を起動する必要があります。SIOC 1 アダプタのファームウェアをアップグレードするにはサーバノード 1 の HUU を起動します。SIOC 2 のファームウェアをアップグレードするには、サーバノード 2 の HUU を起動します。



(注) C3160 ダウンロード ページからではなく、C3260 ダウンロード ページからの 2.0(13) HUU を使用してください。

- ステップ 3** すべてのコンポーネントが Cisco IMC 2.0(13) にアップグレードされていることを確認します。CMC、BMC、BIOS、SAS エクスパンダ、および両方の SIOC アダプタのファームウェアバージョンを確認します。
- ステップ 4** シャットダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 5** 既存の M3 サーバノードを取り外し、新しい M4 サーバノードと交換します。手順については、[サーバノードの交換\(3-25 ページ\)](#)を参照してください。

図 E-2 セットアップ用の背面パネルコネクタ



1	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	3	各サーバノードの KVM コンソールコネクタ
2	10/100/1000 専用管理ポート		

- ステップ 6** システムに電源ケーブルを再度つなぎます。初回のブート時には、サーバノードが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 5 分かかります。
- ステップ 7** システムの背面にあるいずれかのサーバノードの KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します (図 E-2 を参照)。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。
- ステップ 8** Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。
 - a. 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、システムを起動します。F8 を押すようにとのプロンプト画面が表示されるのを待ちます。

- b. ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。
このユーティリティには3つのウィンドウがあり、F1 または F2 を押すことで切り替えることができます。

ステップ 9 ユーティリティによりデフォルトのユーザパスワードを変更するよう求められます。続行する前に、デフォルトのユーザパスワードを設定します。

ステップ 10 すべての SIOC の CMC と、すべてのサーバノードの BMC を工場出荷時のデフォルトに設定します。

[Factory Default] チェックボックスには2つのオプションがありますが、この2つのリセットは次の順序で実行する必要があります。

- [Chassis Controller Configuration] を選択し、変更を保存します。SIOC 内のどちらの CMC も工場出荷時のデフォルトに設定されます。
- [Server Controller Configuration] を選択し、変更を保存します。サーバノードはその工場出荷時のデフォルト状態に戻され、サーバ/ホストがリブートします。



(注) デフォルトへのリセット後に BMC がリブートします。次の手順でサーバがリブートしたら、F8 を押してプロンプトが表示されるのを確認します。



(注) 2 番目のサーバノードの BMC も工場出荷時のデフォルトに設定します。

ステップ 11 プロンプトが表示されたら、**F8** を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを再度起動します。

ステップ 12 プロンプトが表示されたら、新しい Cisco IMC のパスワードを設定します。

ステップ 13 システムの管理、CMC、および BMC IP アドレスを設定します。



(注) DHCP サーバを使用しており、SFP+ ケーブルが SIOC に接続されていれば、管理 IP アドレスとネットワーク設定はすでに入力されています。DHCP をディセーブルにする場合は、ユーザ固有のスタティック管理 IP アドレスとネットワーク設定を設定する必要があります。

ステップ 14 スタティック IP を設定する (DHCP がディセーブルである) 場合にのみ実行する手順: CMC および BMC の内部 IP アドレスを、[CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定 \(2-15 ページ\)](#) の説明に従って、Cisco IMC インターフェイスを使用して設定します。

ステップ 15 Cisco IMC (GUI または CLI) を使用して、個々のサーバノードにハードドライブをマップするハードドライブのゾーン分割を定義します。Cisco IMC GUI または Cisco IMC CLI を使用:

- Cisco IMC GUI を使用:
 - システムの管理 IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理ソフトウェアにログインします。
 - 次のタブに移動します。
[Chassis] > [Inventory] > [Dynamic Storage] > [Zoning]
 - ドライブを選択し、サーバ 1 またはサーバ 2 に割り当てます。
- Cisco IMC CLI を使用して、ご自身の選択内容に合わせ次のコマンドを入力します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis# scope dynamic-storage
Server /chassis/dynamic-storage# assign-drive <server ID> <drive-slotid-list>
```

次に例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # scope dynamic-storage
svbu-huu-sanity-col2-1-vmc /chassis/dynamic-storage # assign-drive server2 27
Are you sure you want to assign drives 27 to server2
Enter 'yes' to confirm -> yes
assign-drive operation successful.
```

M3 サーバノード 1 つが搭載された C3160 から M4 サーバノード 1 つ搭載された C3260 への移行

この手順では、C3X60 M3 サーバノードを 1 つ使用している Cisco UCS C3160 システムを、C3X60 M4 サーバノードを 1 つ使用する Cisco UCS C3260 システムにアップグレードします。

この移行に必要な品目

ハードウェア

- サーバベイ 1(上部ベイ)に 1 台の M3 サーバノードが搭載された Cisco UCS C3160 システム。移行を開始するには、システムが Cisco IMC 2.0(8) または 2.0(9) ファームウェア (他は不可) を実行している必要があります。
- 新しいシステム I/O コントローラ (SIOC)_{UCSC-C3260-SIOC}。この新しい SIOC は、Cisco IMC 2.0.13 以降のファームウェア (出荷時に初期状態でインストールされています) を実行している必要があります。
- 新しい C3X60 M4 サーバノード。

Software

- DHCP サーバで設定されたか、スタティック IP アドレスとして手動で入力した、最大 5 個の IP アドレス。詳細については、「[システム IP アドレス \(2-10 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco IMC 2.0(8) または 2.0(9) ファームウェアの最新の Host Upgrade Utility パッケージ。これを使用して、Cisco C3160 システム全体を前提条件のファームウェアに更新します。
- Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェアの Host Upgrade Utility パッケージ。これを使用して、システムを M4 サーバノード要件で Cisco C3260 にアップグレードします。

このユーティリティのダウンロード手順および使用方法については、[HUU ガイド](#)で、ご使用のリリースのガイドに記載の手順を参照してください。

アップグレードの考慮事項

以下の点に注意してください。


- アップグレード後に、個々のサーバノードにハードドライブをマップするためのドライブゾーン分割を手動で定義する必要があります。
- アップグレード後に、ブート SSD によってオペレーティングシステムが失われる可能性があります。この例では、オペレーティングシステムをブート SSD に再インストールします。

移行手順

手順の概要

1. C3160 システム全体が Cisco IMC 2.0(8) または 2.0(9) を実行していることを確認します。
2. C3160 システム全体を 2.0(13) にアップグレードします。
3. すべての電源コードを抜き、システムから電源を取り外します。
4. C3160 SIOC を C3260 SIOC (UCSC-C3260-SIOC) と交換します。
5. M3 サーバノードを M4 サーバノードと交換します。
6. ネットワーク ケーブルと電源コードをつなぎ直します。
7. システムを起動させ、CMC と BMC を工場出荷時のデフォルトに設定します。
8. IP アドレスとネットワークの設定を行います。
9. ハードドライブのドライブゾーン分割を実施します。

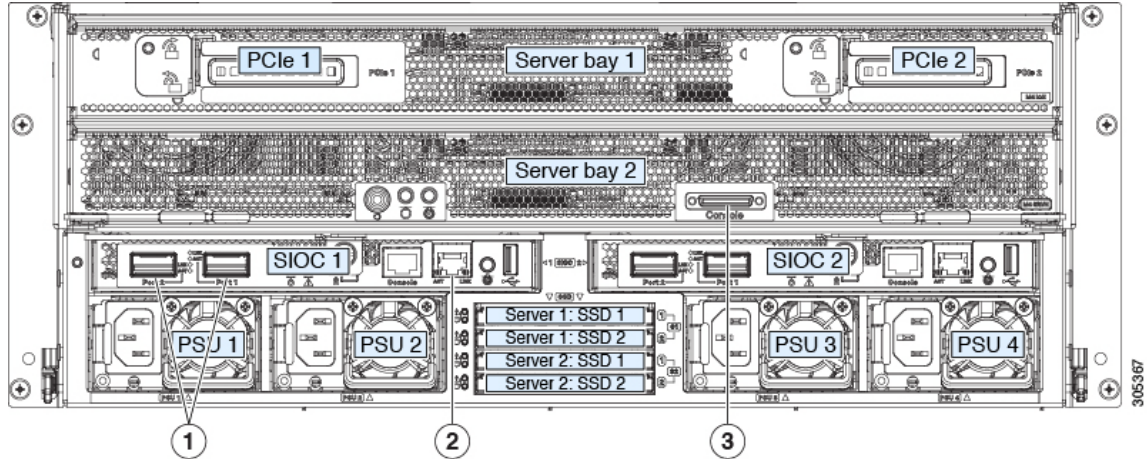
M3 サーバノード 1 つが搭載された C3160 から M4 サーバノード 1 つが搭載された C3260 への移行

- ステップ 1** 移行を開始するには、Cisco C3160 システム全体が Cisco IMC 2.0(8) または 2.0(9) を実行している必要があります。
-  **(注)** 2.0(8) よりも前のリリースを実行している場合には、システム ファームウェアのアップグレードが必要になることがあります。
- システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 2.0(8) または 2.0(9) の C3160 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、[HUU ガイド](#) に用意されている、リリース 2.0(8) または 2.0(9) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイドを参照してください。
- ステップ 2** 2.0(13) 用の C3160 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。
- ステップ 3** シャットダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 4** 既存のすべての C3160 SIOC をシステムから取り外します。
- ステップ 5** SIOC ベイ 1 (サーバー背面に向かって左側のベイ。図 E-3 を参照) に、1 つの新しい C3260 SIOC (UCSC-C3260-SIOC-) を設置します。
- ステップ 6** 既存の M3 サーバノードを取り外し、いずれかのサーバベイで新しい M4 サーバノードと交換します。
- M4 サーバノードの上部に I/O エクспанダが取り付けられている場合は、それらをサーバベイ 2 にサーバノードとともに取り付けます。
- 手順については、[サーバノードの交換 \(3-25 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 7** 必要に応じて、ネットワーク ケーブルを新しい SIOC ポートに接続します。

M3 サーバノード 1つが搭載された C3160 から M4 サーバノード 1つ搭載された C3260 への移行

- ステップ 8** システムにキーボードとモニタを接続します。
- システムの背面にあるサーバノードの外部 KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します (コネクタの位置については、[図 E-3](#) を参照)。
 - VGA モニタと USB キーボードを KVM ケーブルのコネクタに接続します。

図 E-3 セットアップ用の背面パネルコネクタ



1	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	3	各サーバノードの KVM コンソールコネクタ
2	10/100/1000 専用管理ポート		

- ステップ 9** 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- ステップ 10** プロンプトが表示されたら、**F8** を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリティには 3 つのウィンドウがあり、F1 または F2 を押すことで切り替えることができます。
- ステップ 11** ユーティリティによりデフォルトのユーザパスワードを変更するよう求められます。続行する前に、デフォルトのユーザパスワードを設定します。
- ステップ 12** SIOC の CMC と、サーバノードの BMC を工場出荷時のデフォルトに設定します。

[Factory Default] チェックボックスには、次の 2 つのオプションがあります。

- [Chassis Controller Configuration]: SIOC 内のどちらの CMC も工場出荷時のデフォルト状態に設定されます。
- [Server Controller Configuration]: サーバノードはその工場出荷時のデフォルト状態に戻され、サーバ/ホストがリブートします。



(注) デフォルトへのリセット後に BMC および CMC がリブートします。次のステップに進む前に、リブートが完了するまで待ちます。

リブートが完了すると、システムは C3260 シャーシとして動作します。

- ステップ 13** プロンプトが表示されたら、**F8** を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。

ステップ 14 目的の IP アドレス、NIC モード、NIC 冗長化に応じてネットワークプロパティを設定します。

- a. 5 つの IP アドレスを設定するという、C3260 システムの要件に注意します。詳細については、「[システム IP アドレス \(2-10 ページ\)](#)」を参照してください。

手順のこの時点では、システムは次の 3 つのアドレスを必要とします。

- 1 つの管理 IP アドレス
- SIOC 用に 1 つの CMC アドレス
- サーバノード用に 1 つの BMC アドレス



(注) DHCP サーバを使用している場合、アドレスは DHCP サーバによって定義されます。DHCP をディセーブルにした場合は、ユーザ固有のスタティック管理 IP アドレスとネットワーク設定を指定する必要があります。

- b. ネットワーク設定は、ブート時に F8 を押すと開かれる Cisco IMC 設定ユーティリティを使用して行います。[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(2-13 ページ\)](#)を参照してください。
- c. CMC および BMC コントローラのスタティック IP アドレスを設定する場合は、[CMC および BMC のスタティックな内部 IP アドレスの設定 \(2-15 ページ\)](#)に説明されているとおり、Cisco IMC 管理インターフェイスを使用することが求められています。

ステップ 15 任意:この時点で、2 番目のサーバノードと 2 番目の SIOC を Cisco C3260 シャーシに設置できます。[M4 サーバノードが搭載された C3260 システムへの 2 番目のサーバノードまたは SIOC の取り付け \(E-13 ページ\)](#)を参照してください。

M4 サーバノードが搭載された C3260 システムへの 2 番目のサーバノードまたは SIOC の取り付け

- [2 番目の SIOC の設置 \(E-13 ページ\)](#)
- [2 番目の M4 サーバノードの取り付け \(E-14 ページ\)](#)

2 番目の SIOC の設置

重要な点として、新しい C3260 SIOC の CMC ファームウェアは、既存の SIOC の CMC ファームウェアと同じバージョンでなければなりません。CMC のバージョンが異なる場合は、バージョンが一致するように CMC をアップグレードする必要があります。



(注) 2 番目の SIOC が挿入されると、そのシャーシ管理コントローラ (CMC) はスタンバイ CMC になります。あるシャーシから別のシャーシに C3260 SIOC を移動すると、SIOC の CMC 構成は互換性のないものとして扱われ、自動的に削除されます。新しい SIOC CMC は、既存の SIOC のアクティブな CMC と同期されます。

■ M4 サーバノードが搭載された C3260 システムへの 2 番目のサーバノードまたは SIOC の取り付け

- ステップ 1** 2 番目の C3260 SIOC は、システムの電源を切らずに設置できます。
- 内部バックプレーンに突き当たるまで、SIOC を空の SIOC ベイに押し込みます。
 - SIOC の 2 つのイジェクト レバーを閉じ、SIOC コネクタとミッドプレーン コネクタを十分にかみ合わせます。
 - SIOC のイジェクト レバーの蝶ネジを締めます。
- ステップ 2** SFP+ ケーブルを、2 番目の SIOC 上の SFP+ ポートに接続します。



(注) 専用 NIC モードを使用している場合は、RJ-45 イーサネット ケーブルを専用の管理ポートに接続します。

- ステップ 3** 新しい SIOC に CMC IP アドレスを割り当てます。
- DHCP サーバを使用するように C3260 システムが設定されている場合は、それに新しい SIOC への CMC IP アドレスの割り当てを許可します。
 - DHCP サーバを使用しない場合は、Cisco IMC インターフェイス (CLI または GUI) を使用して、[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(2-13 ページ\)](#) の説明に従って、手動で新しい SIOC の CMC IP アドレスを割り当てます。
- ステップ 4** SIOC の CMC とアダプタ ファームウェアが他の SIOC のファームウェアと一致することを確認します。一致していない場合は、SIOC のファームウェアを更新します。

2 番目の M4 サーバノードの取り付け

この手順に必要な品目

- Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェアを実行している M4 サーバノード。

手順

- ステップ 1** ターゲット C3260 システムが Cisco IMC 2.0(13) 以降のファームウェアを実行していることを確認します。
- ステップ 2** 2 番目のサーバノードは、システムの電源を切らずに設置できます。
- システムにドライブ エクスパンダ モジュールまたは I/O エクスパンダがある場合は、システムから取り外します。
 - ドライブ エクスパンダ モジュールを取り外すには、[ドライブ拡張モジュールの交換 \(3-25 ページ\)](#) を参照してください。
 - I/O エクスパンダを取り外すには、サーバノードを取り外してから、I/O エクスパンダを取り外します。[I/O エクスパンダの交換 \(C3X60 M4 サーバノードのみ\) \(3-32 ページ\)](#) を参照してください。
- 2 つのイジェクト レバーを開き、新しいサーバノードを空のベイの位置に合わせます。
 - サーバノードがミッドプレーン コネクタとかみ合い、シャーシの表面と同じ高さになる位置まで、サーバノードをベイに押し込みます。

- d. 両方のイジェクト レバーが平らになり、ラッチがサーバノードの背面にロックされるまで、両方のイジェクト レバーを中央に向けて回転させます。

ステップ 3 C3260 Cisco IMC CLI または GUI からサーバノードを管理できることを確認します。新しいサーバが CLI または GUI に表示されない場合、サーバを工場出荷時のデフォルトにリセットする必要があります。

CLI を使用する場合の例:

```
C3260-Server# scope chassis
C3260-Server /chassis# show server
<Server ID> <Power state> <Serial number> <Product name> <PID> <UUID>
-----
1 on FCH1848793G UCS C3260 UCSC-C3K-M4SRB 36399C1B-6E9A-4E95-BEAC-B9003DCA6C7F
2 on FCH18407MY2 UCS C3260 UCSC-C3K-M4SRB C00E5CEO-A596-45E0-82CD-0B2F0A395FAC
```

- サーバが CLI または GUI に表示される場合は、次の手順を実行します。
- サーバが表示されない場合は、出荷時の初期状態に設定します。
- a. KVM ケーブルを使用して、先ほど挿入したサーバの背面にある KVM コネクタにモニタとキーボードを接続します。
- b. サーバノードを起動し、プロンプトが表示されたら、**F8** を押して Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
- c. **F1** を押して、ユーティリティの 2 番目の画面に移動します。
- d. [Server Controller Configuration] の [Factory Default] オプションを選択します。選択したサーバノードはその工場出荷時のデフォルト状態に戻され、選択したサーバ/ホストがリブートします。
- e. **F10** キーを押して変更を保存し、サーバの BMC をリブートします。
- f. リブートが完了するまで待ちます(約 5 分)。

ステップ 4 新しいサーバノードに BMC IP アドレスを割り当てます。

- DHCP サーバを使用するように C3260 システムが設定されている場合は、新しいサーバノードへの BMC IP アドレスの割り当てを許可してから、次のステップに進みます。
- DHCP サーバを使用しない場合は、Cisco IMC インターフェイス (CLI または GUI) を使用して、手動で新しいサーバノードの BMC IP アドレスを割り当てます。

CLI を使用する場合の例:

```
C3260-Server# scope network
C3260-Server /cimc/network# set v4-addr-bmc<n> <v4 ip-address>
C3260-Server /cimc/network# set v6-addr-bmc<n> <v6 ip-address>
```

詳細については、『Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller GUI Configuration Guide for C3260 Servers』または『Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller CLI Configuration Guide for C3260 Servers』を参照してください。各種構成ガイドのリストは[こちら](#)です。

2 番目の M4 サーバノードが C3260 システムで使用できる状態になりました。

- M4 サーバノードが搭載された C3260 システムへの 2 番目のサーバノードまたは SIOC の取り付け